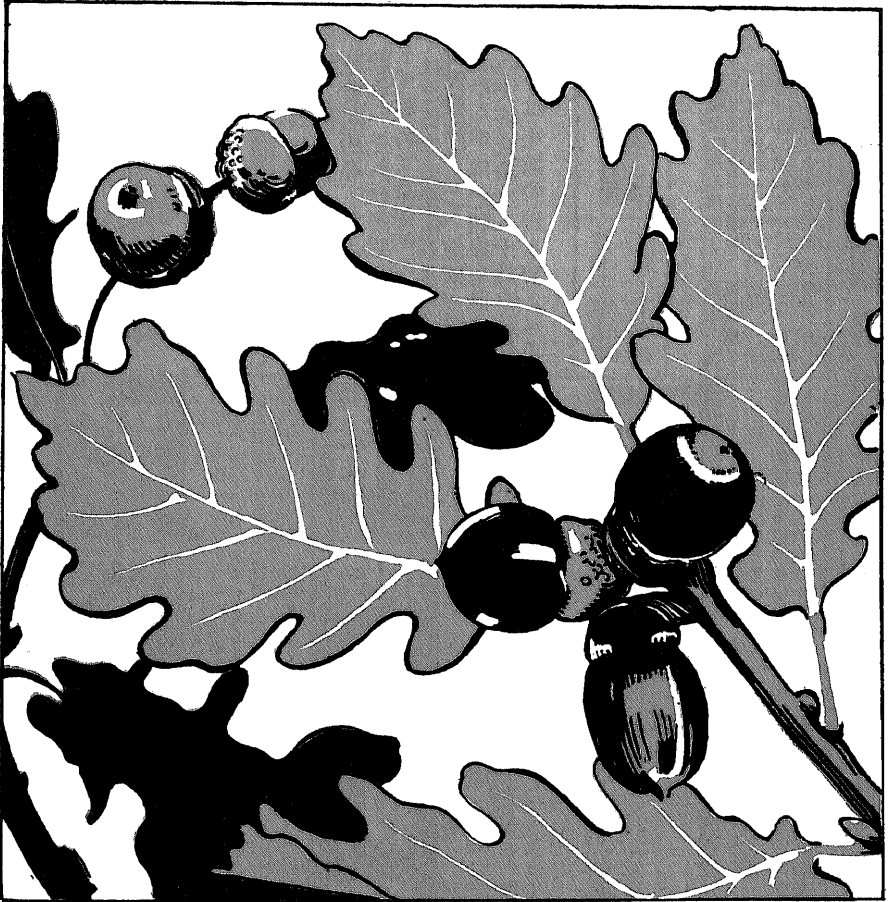


幼の育教

號四第 號月四 卷七十三第



東京女子高等師範學校
白木幼稚園協會

廣島文理科 應用心理研究會編

應用心理研究特輯號

應用心理學論文集

最新刊 菊判洋裝 全一冊紙數貳百八十頁 定價壹圓五錢 送料 十四錢

心理學が醫學、文學、思想、教育、社會問題等、各方面に有する關聯の深きは驚くべきもので、最近のそれは學窓より街頭に出て直接生活に必須のものとして、極めて實際的問題となつて來た。雜誌「應用心理研究」は之等の必要に基き一は諸大家が心血を注がれたる研究の發表機關として、他面一般社會の心理學應用の理解を深からしめんが爲創刊以來既に卷を重ねて來た。今現代學界の大家の大研究論文八十篇を特輯増大號として公にする事の出來たのは小館の最も誇とする所である。

應用心理研究 現代應用心理學概觀

定價一圓廿錢 送料 十四錢

內容目次

勞働による眼調節機能の變化 高橋 養友
 性格と時間意識の關聯的研究 守田 道雄
 未教育兒童に於ける「順服」の心理 山本 久保
 男根統裁期前の性的成熟に就き 小日向 義雄
 外國文學に見えたる「中心」の心理 上野 義雄
 産業心理學研究の近況 小日向 義雄

我國職業指導の現狀 磯近 犯
 新體育運動の心理的側面 松井 三雄
 検査の試みた各種テスト 古賀 良義
 我國應用心理學書目録 岸本 吉吉

發兌 東京市牛込區 振替東京三六四二七 中文館書店

廣島文理科 文學博士 久保良英著

形態心理學

菊判洋裝全一冊・定價三圓五十錢・送料廿一錢
 形態心理學の出現と共に心理學界は一大センセーションを捲き起して居る。彼等はヴントやセームスの如き巨匠に依りて建設された心理學の大殿堂を根柢から覆さんと試み、在來の心理學とは全く異つた見地から精神現象を見直さんと企てて居る。今回形態心理學の紹介に逸早く努力しつゝありし久保博士に依り初めて本書が公にせられた。

精神分析學

菊判洋裝全一冊・定價四圓・送料二十一錢
 心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならず予のこれが應用的方面に於ては殆んど無盡蔵と謂ふべく少くとも形而上の諸科學の中に在つては第一すべきものである。遺珠に最近斯學が教育界に瀾らした影響の甚大きは特筆すべきもので、性教育の根本的解決などに付ても精神分析法を他に代して殆んど不可能とせられて居る。一般心理學徒は勿論學校教育家他總ての文化人の必讀を乞ふ。

實驗心理學精義

簡單篇 定價六圓八十錢 送料二十七錢
 複雜篇 定價六圓 送料廿七錢
 本書は實驗心理學が開拓した所又はせんとする所を編く各種の行動の項目の下にその研究の方法と結果とを詳述した。特に編輯の方法は博士の體験上斯學者の最も興味を失はぬ様實的量的兩者交互に設述せられた。此の周到なる用意は如實に本書の上に表現す。如此本書は懇切トものたる事は勿論特に出童の心理實驗に力を注いだ。

主催 みどり會
後援 映畫評論社

映畫團樂の會

會員券

夜畫共

二〇〇〇
四〇〇
〇・五〇

四月三十日(金)

於九段

軍人會館

晝の部 午後一時開映

夜の部 午後六時開映

お子さん方のために

御家族皆様のために

- 1、漫畫 ポバイの體操學校
- 2、極彩色漫畫 お菓子祭り
- 3、蟻の一生
- 4、タップ・ダンス
- 5、家なき兒

- 1、極彩色漫畫
- 2、乙女の湖
- 3、タップ・ダンス
- 4、マヅルカ

みどり會在京會員の方々に

私共の「みどり會」も四百に足らぬ少數の會員でしか在京會員は僅かに百餘名で御座いますが、倉橋先生始め諸先生方の慈雨に恵まれ、又會員皆様とのあたたかい集ひの幾度かを重ねてまゐります内に、さうやら根強いものになつて來た様に感じられ、まことに御同慶の至りで御座います。

それにつきましても私共の頭にすぐひびいてまゐります事は、會としての基金のない事で御座います。其の爲に昨年四月には皆様のなみ／＼ならぬ御盡力により、豫期以上の盛會な講習會が出来まして、御承知の様に本校落成祝賀會には「みどり會」からもお祝を差上げる事が出来たので御座います。尙これから先を考へます時に、毎年七月末上京される地方會員の方々の御招待や、又四年後に開かれる全國保育大會の時など久々に御上京なさる地方會員の方々に、心から御歡待出來たらさんな愉快な事で御座います。又遠く十年……十五年……またつた後お互のクラス會に地方會員の方のお宿に可愛い「みどりのお家」が出来たのならさんな嬉しき事で御座いませう。老も若きもそれ／＼昔の「お茶の水時代」「大塚時代」を心ゆくまで語り合ふために今から心がけて行かうでは御座いませんか。

その基金募集の本年も又皆々様のお力を拜借して第一回の映畫會を開催する事に致しました。會員の少い私共で大きな仕事をいたします事は相當に骨の折れる事を覺悟しなければなりません。しかし出来るだけ皆様のお骨折りを助け出来るやう幹事一同度々より合ひしまして場所、日時、費用、プロ作製等充分に考へたつもりで御座います。さうぞ「私共のみどり會」の爲に昨年にも増して御盡力下さいます様伏してお願ひ申し上げます。

昭和十二年三月

みどり會 幹事 一同

●眞に理想的な

女學生制服地

ごして

コレアンクロス(松高織)を御薦め致します

▲優秀なる織糸—品質が優秀で世界一と云はれるエヂプト棉を紡績したもので、而かも経緯共に二子撚を用ひてありますから堅牢無比であります。

▲色の褪せないこと—現代科學が産出した最高級染料インゲンスレン染めでありますから、幾度洗濯しても日光に晒らしても絶対に變色しません。

特徴

▲洗ひばれのする地質—

糊を使はないため縮の様な光澤を持ち洗滌後の方が却つて生地目がつんで美しくなります。

▲經濟的なること—

右の如き優秀な材料で製造されたのにも拘らず、値段は低廉であり、而かも耐久力は比類なき程丈夫な點に經濟的であります。

コレアンクロスは婦人子供服地として、國內は勿論海外各地にも知られ、好評を博して居りますが、分けても女生徒の制服地として最も優れた特色を備へて、全國各女學校、小學校の制服地として採用されて居る所五百餘校に達して居ります。生徒の爲め學校の爲め是非一度御試用あらん事を。

朝鮮開城府高麗町

コレアンクロス製造元

株式會社

松高

高實

商業

會場

東京代理店

マ

リ

ヤ

商

會

○サンプルは御一報次第御送り致します。

○仕立は各百貨店洋裁部各洋裁店及洋服店に仕立させて頂きます。

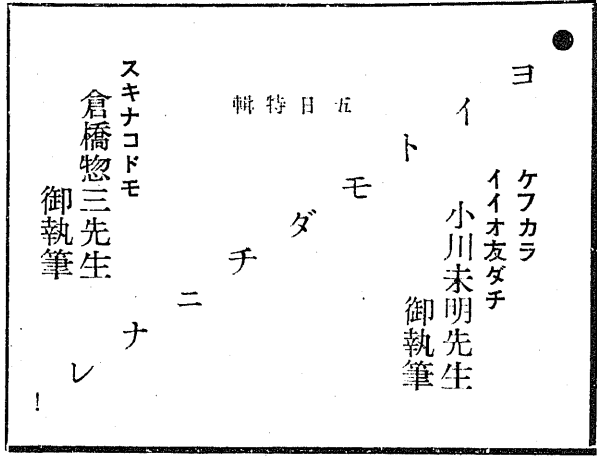


東京市京橋區銀座西六丁目一
電話銀座六九四番
振替東京八一八二番

りかひのりかひ

五月特大號 一册十五錢 只今發賣中

愛兒の情操と創作教育
日本唯一の高級繪雜誌



★

特別附錄

< 世界ノ旗 >

・) — — (・

花咲く園に太陽を慕ふ幼兒

りかひのりかひのりかひ

こども研究社發行 太陽の兒愛はりかひのりかひ

繪畫指導 (繪導) 童話指導 (童導) 綴方指導 (綴導)

清水良雄先生
西條八十先生
小川未明先生

子供研究社發行 東京橋本七

お話の木發行所 童話讀本

松石治子著

〔新人の劃期的幼稚園教育研究〕

最新刊

指導案 綜合保育

菊判美裝
二五七頁
定價
金貳圓參拾錢
送料金十四錢

特色

本書は觀察・談話・唱歌・遊戲・手技生活事項を有機的に綜合せり
題目は四季に區別し凸版實例により系統的具體的に説明せり
本案によりて實際指導が直ちに出来る然も新メリードなり

幼稚園託兒所の實際教育として極めて最新なものである。學習題材は幼兒の生活單位にもこめ系統的に具體的に具體的に唱歌・遊戲・手技等を綜合して從來の幼稚園教育上劃期的なものである。加ふるに本書は實例凸版等をもつて平易に説明し、本書があれば幼兒教育の運用に苦しむことがない。本書の教育的價値は我國に於ける幼稚園のカリキュラムの研究として獨自的地位を持つてゐる。見逃してならぬものである。

朝原梅一著

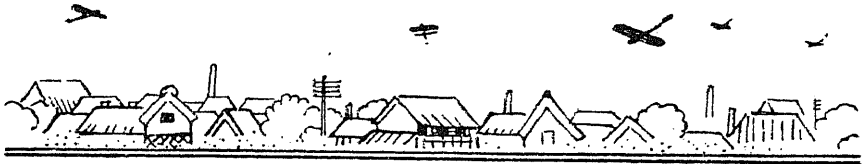
著名

幼稚園 託兒所 保育の實際

四六判洋裝
三二〇頁
定價
金壹圓參拾錢
送料金十二錢

幼稚園託兒所は大きな社會問題である。本書は幼兒教育の内外に於ける史的考察、保育事業の經營法、建物、設備、管理、職員、農繁期託兒所及保育施設數の附帶事業、保育事業關係法規及準用法規等に至るまで明快に敘述せるものにして、本書一冊あれば幼兒教育の概要を知る事が出来る。特に本書の主要なる點は、第三編保育の實際である。こゝには著者の深い幼兒教育の思想が見られる。されば本書は幼稚園等を新に初める者にこつても、又現に従事してゐる者にこつても良書である。小學校の施設にも貴重な書である。

發行所 資合會社 三友社 東振替口 市東區 四座 谷東區 新宿區 一七一 八八〇番



號四第 育教の兒幼 卷七十三第

—(次 目)—

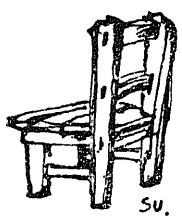
口繪

| | |
|-------------------|-----------|
| 趣き—保姆諸君と語る(四) | 會橋惣三(一) |
| 小學校入學検定で感じたこと二つ三つ | 堀七藏(四) |
| 猿蟹合戦の變遷 | 小池藤五郎(二〇) |
| 幼兒 燕さんのエプロンのお話 | 武川雪夫(二二) |
| 童話 燕さんのエプロンのお話 | 會根保(二三) |
| 春の歌 | 附屬幼稚園(元) |
| 山姥と三人の娘 | 竹中良治郎(四) |
| 教育界の轉向と保育 | 菊池ふじの(毛) |
| 感想二つ | 氏原 銀(四) |
| 禮儀 | 北條 靜(四) |
| ある試 | 小島その(四) |
| お店あそび | 菅原教造(五) |
| 生活と職業 | |

長尾 豊著 (新版)

四六判美装 定價二圓五十錢
函入五六〇頁 送料十八錢

新幼稚園はなし



堂々六百頁
凡る幼稚園
に一冊必備
新幼稚園の
大寶庫!

東京帝大助教授
青木誠四郎序
東京女高師教授
堀七藏序

▼お話は難しいものです。何でも聴かせたらいいといふのではありません。▼そんならどんなお話を與へるか、これには先づ「お話そのもの」考察と「お話としての考察」が必要で、その中でも、教育的にも藝術的にも、一つ一つのお話をどう扱はねばならないか。▼本書はかかる見地から新幼稚園はなし五十を選び、懇切に指導した唯一の本です。

- ☆ 子供の遊ばせ方 坂内ミツ著 送料二四
- ☆ 實物提示 幼児に聴かせる話 久連松弘著 送料二四
- ☆ 新幼児ばなし 三百六(春・夏・秋)十五日(冬の四巻) 各二・二〇 送料二四
- ☆ 幼児に讀んで聴かせるお話 石井小浪著 送料二四
- ☆ 幼稚園の舞踊 長尾井波著 送料二四
- ☆ 幼稚園のおはなし 長尾井波著 送料二四
- ☆ 幼稚園のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 幼稚園のびんにんぎやう 長尾井波著 送料二四
- ☆ 低學年のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 低學年のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 低學年のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 低學年のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 低學年のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 低學年のおゆぎ 長尾井波著 送料二四
- ☆ 幼稚園教育の實際 永澤義憲著 送料二四

この書はほんとうに子供を愛しみ、育くまうとするお母様方や、保母、あるひは教師たちにも、この上ない贈りものであることを喜びたい。
青木誠四郎
★朝のお話・食後のお話等、新選五十話と各話の新指示!

閣生厚 町番六下・町廻・京東
番〇〇六九五京東替振



漫
嬉

幼 児 の 教 育

昭 和 二 十 年 四 月

趣
つれ

——保姆諸君と語る—— (四)

倉 橋 惣 三

ぽか／＼と暖い今日此頃。爛漫々々咲いてゐる花は誰れにだつて美しい。花が嫌ひださぬ人はある筈がない。たゞ閑ひまのあるなしで、お花見に出かける人さ出かける人さに分れる。美しいものは誰れだつて好きだ。趣味、無趣味は、たゞ閑ひまのあるなしの問題ださぬのが、先づ一應の理論である。「忙しくて、趣ききころで御さいません」は、よく聞く言譯けである。その閑ひまを經濟的に換算して、「金がなくて趣ききころですかい」は、小でんぼうに口をきく人もある。

趣ききは、そんな時閑ひまのかゝり、資本もとのいることばかりだらうか。勿論、それは趣きを満喫するに必要な、少なくとも都合のいゝ條件であるに相違ない。又、趣味者、殊に風流人風雅人さして人の目に立つまでになるのは、時や金にあかした場合のことであらう。しかし、澤山の時を低趣味に過ごし、ふんだんの金を没趣味に費す場合も少なくないさころか、其の方が多かつたりするのを見るに、趣きは必ずしも閑ひまさ金さの

問題でないらしい。

あんまり皆さんにうちつけなお話になるが一寸あなたの保育室をのぞかせて頂きませう。そこはお座敷でもなし、社交室でもなし、謂はゞ子ぎもの遊び場ですもの、ちらかつてゐるのは當り前である。況してや、高價な壁紙と豪華な調度品で飾り立てゝある處ではない。片づけても片づけても散らかつてこいふが、子ぎもの居る間、片づける閑だつてないであらう。丈夫一方の實用ものばかりでこいふが、子ぎもがちよつと觸つて倒したら直ぐ千金の損失こいつたようなものが列べて置ける筈はない。私は何も、そこが常にキチンと片づき、美々しく飾られてあることを要求する程しう、こでもない。それどころか、私の趣味を見て呉れ、之れが私の趣味であるこいつて、子ぎもの部屋らしい、あざけない散らかりを抑へたり、簡素を失はせたりするところが見えたら、それこそ却つて保姆としての惡趣味として唾棄するであらう。が、しかし、そこは、子ぎもの部屋ではあるが、子ぎもだけの部屋ではない。立派にあなたこいふ人のゐられる部屋である。子ぎもの背の届かない高さにある壁の繪が何を選ばれてあるか。その繪と臺紙の色との調和がさう考へられてゐるか。之れは子ぎものせいではありませんまい。況して、その額が曲つて(幾日もく)ゐたらさうせう。こころで今度は、その部屋のあなたの小卓の上に置かれてある草花の鉢は誰れの趣味でせう。それも素焼の黒鉢まる出しでない小きれいなカバーは誰れの趣味でせう。數冊立てゝある本の、その列べ方の彩りにくばられてある心づかひは誰れの趣味でせう。……小さなこころばかり目をつける言はれるかも知れないが、小さなこころが目につくのである。趣きは、そうした、その人も自ら心づかないこころに、ちらつこ出て來るものだからである。出て來るこいふよりも、それをこそ趣きこいふのであるからである。宵の明星でもないが、ちらつこ見えるこころに趣きがある。一ぱいに、しかも押しつけるように見せつけ

られたりするミ、折角く的美も雅も趣きミいふものにはならない。

その反對に、けばくしからうが、少しの趣きもこぼれないのは、たゞそれだけのものである。況してや、粗末で亂雑でどこにも趣きの宿つてゐないに於て、もう問題にもならない。今私が此の文を書いてゐる室の前に椿の木があり、紅い花が咲いてゐる。それがほんの二輪、葉がくれにのぞいてゐる。趣きだミ思ふ。南の面の海沿ひの村なごに咲き誇つてゐる花一面の大椿では、美は美、魅せられる程の爛美ではあるが、趣きありミは思へない。金にあかした造り庭に必ずしも趣きなく、閑に任せた浮かれ風流に少しも趣きのないのは、こゝのミころである。

してみるミ、趣きは上はべに張られたものでなく、底に沈んでゐるものである。そこで趣きのある人、ない人ミいふのは、つまりは底に沈んでゐるものを、もつてゐる人もつてゐない人の區別である。その底にもたれてゐるものが、事につけ物につけ、時に觸れ折りに觸れ、趣きミしてふミ出るのである。だから、閑の時よりも却つて忙しい時に、豪華よりも寧ろ質素の中に、その人のほんミうの趣味が動く。忙しい中に一寸立ち止つて花を見る心。簡素の中に一點の彩りを見せた心。床しくもあり、心にくももあるのは斯うした真趣味である。此の真趣味こそ實にその人のものである。

それにしても趣きを解せず、味をもたぬ心の何んミ多いこミであらう。がさつ。ひからび。なげやり。すざうりだけどこまやかさも、うるほひも、心入れも、見かへり心もない。だから何んでもが、たゞそれだけであつて、その奥がない。花の美しさを知らないではないが趣味ミならない。事が仕事になつて仕切つて趣きにならない。知るだけで趣きに到らず呑み込みはするが味が感じられない。惜しいこいふよりも、なさけないこミである。なさけないこいふよりも憂ふべきこミである。そういふ無趣味に保育せられる子ごもば、みんな無趣味になつて仕舞ふであらうから。

そんな趣きなんかさうでもない、こいふのなら、それまでのお話ではあるが。

小學校入學檢定で感じたこと二つ三つ

附屬小學校主事

堀

七

藏

去る一月、尋常第一學年に入學すべき兒童を決定するが爲めに、入學檢定を行ひました。その入學檢定に於て、感じたことを二つ三つ申し上げます。しかしそんなことは幼稚園保育に直接關係がないかとも思はれますが、「幼児の教育」から「何か書け」を御要求でありますから、止むを得ず、貴重な誌面をふさぐことにいたします。

一

東京女子高等師範學校附屬小學校では、一月九日より十日間入學志願者を募集いたしました。その結果第一部に四百二十六人、第二部及び第三部に四百四人の女兒の志願者がありました。そして、第一部の四百二十六人中には、附屬幼稚園から幼稚園主事の推薦で入學するものが二十人ありますから、残りの四百六人が外からの志願者であります。また第二部第三部には外からの四百四人の他に附屬幼稚園から無抽籤で檢定を受けるものが十四人あります。それから男兒は第二部第三部で九十一人の志願者があり、別に附屬幼稚園から五十人の志願者があつたのでありますから、男兒の合計百四十一人です。

是等多數の志願者中から、第一部では二十人第二部では男女各十二人、第三部では男女各十五人を入學させる豫定であります。それで一月二十日例年のやうな方法で抽籤をいたしました。そして第一部では女兒、一番より七十番まで七十人第二部では女兒七十一番より百二十番まで四十人、第三部では女兒百二十一番より百七十番まで五十人を入學檢定候補者

みなし附屬幼稚園からの十四人を加へて合計百八十四人を検定したわけであります。

また男児は第二部は一番より四十番まで四十人、第三部は五十一番より九十番まで五十人を検定候補者みなしこの外に附屬幼稚園からの五十人を加へて百四十人について入學検定を行つたわけであります。

二

缺席者を除いて實際に検定したものは、第一部、第二部、第三部を通じて女児が百六十四人、男児が九十九人でありま
す。そしてその中から、女児は四十九人、男児二十九人を入學者と決定したのでありますから、男女共ザット三人強に對
して一人の合格であります。そして是等の検定したものと、幼稚園に行つてゐないもの、女児では二十八人、男児では
十二人であります。それで女児百六十四人中、僅かに二十八人が幼稚園に行かないもので、幼稚園に行つてゐるものがそ
他の百三十六人であります。また男児では、九十九人中僅かに十二人が幼稚園に行かないものであるから、他の八十七
人が幼稚園に行つてゐるのであります。この點から推定するに、東京市で官公立の附屬小學校のやうな特別な學校に入學
希望を有する位な家庭では、その子女を幼稚園に入れるものが頗る多いのであります。そして入學合格者も殆ど凡てが幼
稚園在園者であることは當然さはいへ、幼稚園保育の成績を物語るものでありませう。

三

入學検定に於て試みに、「誰と一緒にこの學校に來ましたか」と尋ねたのであります。その答の言葉で、「オカアチャン
又はオトウチャン」といふものが男六十五人中に七人、女九十六人中に四人ありました。そして是等の子供さんは多くは
幼稚なものであることが一致した點であります。また「オカアサマ又はオトウサマ」といふものは、男では六十五人中附屬
幼稚園から來たものに四人あるだけであり、女では九十六人中二十八人の多きに達してゐます。そして附屬幼稚園から來

たもの十人が十人とも「オカアサマ又はオトウサマ」を答へたことは一寸面白い現象であります。これは家庭でも亦幼稚園でも、果して意識的に指導して居られるかどうかと思はれるが兎角普通にオトウサン、オカアサンをいつてゐるのに比べると上品な遣ひ方でありませう。

尙ほ面白いことに、今年は「ママを來ました」を答へたものが、女兒九十六人を通して僅かに三人であつたことでもあります。外國に於ける生活の情性で「ママ」を呼ばしめてゐるものを除いては、全く「ママ」を呼ばしめてゐる家庭が少いことを物語るものでありませう。松田文相がママ、ババの使用を攻撃せられた影響も多少あるかも知れないし、日本精神の鼓吹、國粹主義の普及によるかとも思はれます。

四

検定の問題として、繪本を觀せていろいろのこみを尋ねて見たのであるが、この方は一般に成績がよいのであります。繪本の普及によつて幼稚園でも家庭でも、繪本を見るこみが多く、その繪について答へるこみは、幼兒にまつて割合に容易なこみであるからでありませう。次に範畫を三十秒位觀せて置き、その觀たものを觀た通りに畫かせたのであるが、これは割合に成績がよくないのであります。これは繪を注意して觀るこみが少く、觀たものを記憶してゐて直に表現するこみが幼兒の生活に比較的少いからでありませう。尤も親や保母から教はつたものを器械的に畫くといふものの中にはあります。所謂教はつたものを畫くために、検定者の與へたものをよく見ないものもあります。

検定の中に、「君が代は」だけを國歌の節で歌つて、それを幼兒に眞似て發表させたのであるが、調子はづれのものはあまり多くはないが、發音の悪いものが少くないのであります。幼稚園保育に於て、幼兒の發音を正しく指導するこみが肝要であります。家庭に於ても幼兒の言葉に注意して正しく發音するやうに指導せねばなりません。片言まじりにしや、

るのを可愛らしいとして、許容するのみならず、時には推賞するやうなこじがあるが、それは適當ではありません。成るべく正しく發聲をなさしめて發音の練習を行はしめる工夫が何よりも肝要であります。

五

小さな箱にキッチンを入れるこじの出来る積木を箱から出して元のやうに箱に入れるこじを作業させて見たのであるが、これは一般に成績がよくないのであります。兒童の工夫力構成力がどんな有様かを検するこじを目的とした問題であります。第一に兒童の中には是非もこの通りに入れて見ようとなす意欲の頗る薄弱なものもあれば、また同じ失敗を繰返すだけで、いろいろに入れかへて見るこじふこじの足りないものなざいろいろあります。これは幼兒のこじであるから一般に成績の悪いこじは豫期したところであるが、次のやうな結果になつてゐます。

女兒一六四人の得點は四四七點で、一人の平均得點は二・七五點であります。附屬幼稚園から來た女兒十人の得點は三四點であるから、一人の平均得點は三・四點であります。

また男兒九九人の得點は三〇三點であるから一人の平均得點は三・〇六であります。附屬幼稚園から來た男兒三四人の得點は一〇八點であるから一人の平均得點は三・一八點であります。故に男兒一人の得點は女兒一人の得點よりも〇・四三點だけ多いのであります。また附屬幼稚園の男兒一人の平均得點よりも女兒一人の平均得點は〇・二二點だけ多いのであります。それで家庭に於ても、亦幼稚園に於ても積木遊びをさせるこじには、單に大人の積んだものを模倣させるだけでなく、幼兒がいろいろ工夫して積木遊びをなすやうに指導するこじが肝要であります。

六

數種類の似た木の葉を並べて置き、その中の一枚と同じ葉を見付け出させて兒童の觀察する力を檢したのであります。

「蜜柑と林檎とどっちが違つてゐるか」といふ問題ならば蜜柑の觀念と林檎の觀念とを比較してその相異點を見付け出すのであります。しかし入學檢定などでかゝる問を出すに、初めの日には不意に問はれるので、實際に蜜柑と林檎との觀念について比較をなすのでありますが、豫め練習して來た者には、大人からの丸暗記で答へるこゝになります。殊に第二日、第三日になれば、第一日で問題が往々幼稚園や保護者に漏れるので公平を缺きます。それで成るべく實物を觀せてその相異點を見付け出させるのであります。しかし今年の問題は實物を觀て、似たものを見付け出すのでありますから、異なる點を見付け出すよりも、一般には難題であります。しかし六枚の葉をすつと觀て行けば同じ葉があるのであるから、少しく注意して觀察する兒童には、直に明白に答へられるのであります。それにもかゝらず物を注意して觀るこゝが練習せられない結果、一般に成績が悪いのであります。

女兒一六四人の總得點が五二二點であるから、一人平均得點が三・一八點であります。また附屬幼稚園女兒十人の總得點は三七點でありますから、一人平均三・七點であります。男兒九九人の總得點は二六六點であるから一人の平均得點は二・六九點であり、附屬幼稚園男兒三四人の總得點は九一點であるから一人の平均得點は二・六八點であります。この結果から見るに、女兒の平均得點は男兒の平均得點よりも〇・四九點多く、附屬幼稚園女兒の平均得點は一・〇一點も多いのであります。これは男兒には不注意なものが多いので、一般に平均得點が低下してゐるのであります。

試みに男女によつて得點の人數を比較して見るに次の如くであります。

| 女 | | 男 | |
|-------|------|-----|--|
| 五點のもの | 一六四人 | 九九人 | |
| 四點のもの | 三四人 | 二一人 | |
| 三點のもの | 三九人 | 一四人 | |
| 二點のもの | | 二一人 | |
| 一點のもの | | 一七人 | |
| | | 一八人 | |
| | | 一五人 | |

三點のもの 三八人 一九人 零點のもの 四人 一二人

これで見ると、女兒では零點のものが一六四人中僅かに四人であるが、男兒では九九人中一二人もあるから、男兒には零點のものが頗る多いことになります。しかし五點を得たるものは、女兒では一六四人中三四人であるから、その歩合は二〇・七であるが、男兒では九九人中二一人であるから、その歩合は二二・二であつて、男兒の方が歩合はよいのであります。それで觀察に於ては男兒の方が個人差が著しく、觀察力のすゝんだものもあるが、また著しくおくれたものがあることを明白に示すのであります。

七

また數觀念の檢定をしたのでありますが、この方では女兒一六四人の總得點が五六五點でありますから、一人の平均得點は三・四五點であります。そして附屬幼稚園女兒十人の總得點が四一點でありますから、一人の平均得點は四・一點であります。ところが男兒九九人の總得點が三二四點であるから、一人の平均得點が三・二七點であります。尙ほ附屬幼稚園男兒三四人の總得點が一四點でありますから、一人の平均得點は三・三五點であります。従つて附屬幼稚園女兒の平均得點は女兒全體のそれに比して〇・六五點多く、女兒全體の平均得點は幼稚園男兒のそれに比べて〇・一點多く、男兒全體の平均得點に比べて〇・一八點多いのであります。

凡て幼兒の數觀念は、實際に事物を數へるこゝちによつて發達するものであるから、家庭生活に於ても亦幼稚園の保育に於ても、成るべく機會を挿へて事物を數へるこゝちを多くせねばなりません。數觀念をもこにした數計算などをさせるこゝちは寧ろ禁物であります。有ゆる機會に於て數へるこゝちを盛に行はせるこゝちが十以下の數觀念の發達を促がす唯一の道であります。

猿蟹合戦の變遷

小池 藤五郎

昭和八年九月十一日の讀賣新聞には、大體に次の様な意味の記事が載つてゐた。

幼い學童の頭に脅迫や復讐の殘虐な思想を植ゑつける言ふので、教育界の重大問題となつてゐた小學校尋常一年の「國語讀本、卷二」の中の「サルトカニ」の話は、文部省で輿論に鑑み、慎重研究を重ねてゐたが、今度愈々改正する事になつた。それは改正した「小學國語讀本、卷二」では、「サルトカニ」の話の筋を、前回はまるで違つたものに改めて、來月十日から全國各小學校で一齊に使用せしむる事になつた。改正の主な點は、舊讀本に、

「ハヤクメヲダセ、カキノタネ。ダサヌトハサミデハサミキル。」

こあるを、

「早くメヲ出せ、早くメヲ出せ。」

こ改めて、脅迫がましい態度を除いた事が第一である。次に前には猿が青い柿を蟹に投げつけて叩き殺す處を、新讀本ではちよつと怪我した程度にきつめた。子蟹が蜂や白なぎの友達の助けによつて、親の仇を討つところを、今度は、

「サルハ、トウトウ、ジブンガワルカツタトアヤマリマシタ。カニハ、ユルシテヤリマシタ。」

こ改めて殘虐味を一掃した。

これに就いて佐野圖書監修官は次の様に語られた。舊讀本の「サルトカニ」は馬琴の「燕石雜誌」から取つたもの、新讀本

は徳川時代の作者不明の作「ひなのうけぎ」から材料を得たもので、いづれもそれ／＼據り處がある。今度の改正で問題の點を除いたから、もう非難されるやうなことはあるまい。

この記事が現れた後に、各新聞は一齊にこの問題に就いて書きたてた。一例を九月十三日の東京日日新聞に取つて見る、

「果然問題になつた『猿蟹合戦』の改作」

見出しで、文部省の圖書局談、久留島武彦氏談、田中寛一氏談等を五段に渡つて載せてある。文部省の圖書局談は、述の佐野監修官談に大體に似たものであり、田中寛一氏の談は、「あながち復讐的な傳説とはいへない」の見出しで、緩和した内容にしようと言ふのは結構であるが、それが爲に童話の内容を子供にまつて餘り興味の無い物にするに改惡なので、訂正する場合には注意しなくてはならぬ(省略して記載した)。

意味を述べられた。久留島武彦氏は

猿蟹合戦の話は、もごく／＼猿さいふ意地悪な横暴な強者が、蟹と言ふ善良な弱者を食ひ物にするので、弱者が立つて、悪い強者をこらしめると言ふのがテーマで、單に復讐とか仇討以上の大きな意味がある。猿が蟹を殺すのも、大人が考へる程子供には残忍ではなく、こんな事を問題とするは、児童心理を考へない人の主張である。「ハサミキル云々」の歌は本當の猿蟹合戦にはなく、近世になつて誰かゝ作つたものである。文部當局が言はれる盲學校の話も、この歌の「メナダセ」が問題になり、盲人に取つてはつらい文句だと言ふ反對したのみで、話全體に對する反對ではない。古來から傳はる童話は、神話と同じく民族心理に重大な關係を持つてゐるので、後世の書物なきから引つぱつて勝手に改作するは面白くない。

主張して、改作には反対してゐる。此の外の各新聞の記事は割愛するが、兎に角この改作問題は時事問題として人々の關心を刺戟した。

文部省當局の談を除いては、前述の人々の考へ方は、猿蟹合戦の現在の形を唯一無二の物と考へ、この話がどんな變遷を経て今日に至つたかに注意してゐない。又、文部當局談でも、「燕石雜誌」に據つて書いた前の話を、「ひなのうけぎ」に記されてある話に據つて後の話に改めたと言ふ程度であつて、甚だ物足りない。「燕石雜誌」は曲亭馬琴の隨筆で、文化八年に刊行した物、「ひなのうけぎ」は文化頃の隨筆で、私が所藏してゐる「鳥傳日本魂復古酒乳」(賀茂規清の原稿本)の末尾に、「瑞鳥園著述目錄」にして「雜酒字計木」を載せてゐる事から、「ひなのうけぎ」が賀茂規清(瑞鳥園)の著述である事は明白である。いづれも百四十年にも足りない昔に書かれた物に過ぎない。

この外に黒澤翁滿の「童話長編」(隨筆、安政四年刊行)、喜多村信節の「嬉遊笑覽」(隨筆、文政十三年自序、明治三十年初版)、山東京傳の「骨董集」(隨筆、文化十一・十二年刊行)等に猿蟹合戦の記事があるが、いづれも大したものではない。問題となつた當時の新聞を見る時、其の改作の是否を論ずる人々の多くは、これ等の記録を精査した上ではなく、多くは思ひ附によつて論じてゐる事と判断せざるを得ず、重大な國民童話が、かゝる取扱を受けてゐる事に歎かれもした。

この論争が下火になつた頃であつた。思ひあまつた私は、今から二百五十年以前の元祿頃に行はれてゐた猿蟹合戦の話が、「さるかに合戦」(西村重長筆)として、稀らしくも岩崎男爵の文庫中に存在する事と、結果から見ると、文部省の改作は「ひなのうけぎ」どころか、元祿頃の猿蟹合戦の純粹の古形態にかへつたもので、其の暗合の不可思議さに驚く旨を佐野監修官に御話した。そして望まれるまゝに、自己の調べてゐた處を纏めて差出した。佐野監修官は「これで改作に就いての確信を得た」と喜ばれ、「教材研究」(昭和十一年一月、第三卷第一號)上に、

童話「サルトカニ」に就いて

の題目で其の事を書かれた。

一體「猿蟹合戦」はどんな變遷を経てゐるであらうか。口傳へばかりになつてゐる話は、年代の経過によつて次第に變化し、何時頃にどんな筋で話されてゐるか明瞭でない。併しそれが何かの機會で記録されるこゝ、その時代にはどんな形で話されてゐたか、明瞭になる。

猿蟹合戦の記録を捜して、出来るだけ昔に溯つて見るこゝ、行成表紙本に「猿蟹大合戦」(五丁物一冊)の書名がある。これは元祿以前の話の記録らしいが、たゞ書名だけで未だ實物に捜し當らない。その次に古い物は、前に述べた西村重長筆の「さるかに合戦」(刊行は享保の初年と推定、赤本、五丁物一冊)であつて、今から約二百三十年位昔の話である。

〔梗概〕昔々の事、山の猿は御所柿の種を、澤邊の猿は焼飯を拾ひ、お互に交換し合つた。猿は山の上へ柿の種を植ゑて、「なれくならずばはさみ切らん」と言つた。柿の木は「草木心なしいへぎも」一夜のうちに大木となり、澤山柿が實つた。蟹は柿を取らうとするが、樹へ上る事が出来ないで、眺めてゐるこゝ、其處へ猿が来て、取つてやらうと言つて木へ登り、旨い柿は自分達(複数)が食ひ、澁柿を蟹に投附けた。蟹は怪我をして床についた。蟹の枕元で、蜂・庖丁・たて白・めくら蛇・あらめ・てきね・玉子・白なきが、蟹の依頼によつて猿退治の相談をする。猿はそれとも知らずに蟹をたづねて來、蟹を向ひ合つて圍爐裏の火にあたらうこした處、玉子が火の中から跳ね出て、猿は火傷をした。火傷に水でも附けようとするこゝ、手桶の中には庖丁が待つてゐた。蟹・蜂・あらめ・てきね・庖丁・玉子なきが協力して猿を捕へ、白は猿の上に乗つて押へ附けた。猿は「どうでもしろかなわぬぞ」と悲鳴をあげた。玉子は「もうゆるしてやらつしやい」と言つた(引用文は原文通りであるが、諸所に漢字を當嵌めて置いた。以下も同様)。

右の梗概で知られる通り、焼飯と柿の種とを交換する際に猿は、

「うまそうな焼飯の。此柿のさねと取かへて下さい。しかもこれは御所柿の種、これを植へて柿が出来たらおれにくれやう。」

と申込んで、それに答へて蟹は、

「やすい事、かへてしんじよ。」

と同意し、更に猿が、

「柿が出来たらおれにくれさつしやう。」

と言ふに答へて、蟹は、

「いかにも〜。」

と承諾してゐる。この話は當時口碑にあつた猿蟹合戦を其の儘記録したらしく、こんな筋で語られてゐた事が知られる。前に私が文部省の「小學國語讀本、卷二」の「サルトカニ」は、猿蟹合戦の純粹の古形態にかへつたものであると述べたのはこの爲である。其の際の論者の多くが價值を認めた所謂仇討式の猿蟹合戦は、大體に於て、文化・文政頃の小説に敵討物が流行し、それが猿蟹合戦にも取入れられて語られた結果であつて、話の展開からすれば、それは猿蟹合戦の本來の物ではない。

寶曆二年、文豪の曲亭馬琴が「燕石雜誌」を出版した年よりは五十八年前、に出版された小説（桃太郎物語）の中に、猿蟹合戦の話が取入れられてゐる。

〔梗概〕海邊で一匹の蟹が柿の種を拾ひ、それを植ゑるに、急に成長して柿の實が澤山になつた。蟹は木へ登れないので

猿にもいでもらふに、猿は木に登つて、自分だけ旨い柿を食べ、大きな柿を枝ごみにドサツミ落した。蟹は運悪くこれに當つて甲羅を碎かれて死んでしまつた。蟹の子は、栗の毬・立白・あらめ・牛の糞其の他の者を頼んで味方とし、猿の洞穴へ尋ねて行つた。穴の入口には牛の糞が頑張つてゐて、外から歸つて來た猿が、それに滑つて倒れた處を、皆で討取つた。

これが所謂仇討式の猿蟹合戦の最も古い物で私には思はれる。小説の中に挿入されてゐる小話であるので、勿論、當時の口碑を其の儘に記入したとは思はれず、作爲の跡も認められる。これには、猿を滑らせる物が下品な物となつてゐる、柿の種と焼飯の交換、猿の火傷なごの重大な部分が缺けてゐる。

「燕石雜誌」に書いてある猿蟹合戦の筋は紙數の都合で省略する。この話では、猿が目前の慾に迷つて柿の種と焼飯を交換した事にしてある。猿が木の上から澁い柿を蟹に投げてやつたが、勿論投附けて殺す意味はなささうである。併しながら蟹は、澁柿が甲に當つて重傷を受けたらしく、「燕石雜誌」には「得起きず」を記すのみで「死せり」は記さない。併しながら前後の關係で死んだと取れるのである。終になつて、蟹の同情者で猿の一族との大合戦になるに、今迄の猿が急に猿の王と言ふ意味になつてゐる。即ち、焼飯と柿の種を取替へた猿蟹は兩者の代表者の格で、「燕石雜誌」を熟讀する時には、この出來事は猿王・蟹王の間に起つた事の様にも思はれる。不思議な事には、一匹の猿と一匹の蟹の争が、急に猿と蟹の一族間の鬭争となり、それが又、猿の王が蟹の穴を訪れる時から、突然に、猿の方だけが一匹になつてしまひ、蟹の方には依然として蜂や玉子なごの味方がある。この様な點は充分考ふべき處で、古い形の猿蟹合戦の話根の痕跡の様に私には思はれる。

賀茂規清の「雜酒字計木」の筋も紙數の關係で省略する。この話と「燕石雜誌」所載の話とを比較するに次の様な點が注意

される。

(一) 柿の實をもぐ處で、猿は旨い柿を腹一杯食つた上で、木から下りて來て蟹を打擲してゐる。この點が「燕石雜誌」の話にはない。

(二) 「燕石雜誌」の話では、猿と蟹が戦争を始めてから、曰・杵・蜂・鶏卵・あらめ等が加勢するが、この話では柿をもぐ時から蟹が蟹に同情してゐる。

(三) 「燕石雜誌」の話では火傷の場所は腕であるが、此の話では猿の尻である。

(四) 「燕石雜誌」の話では、猿を杵・曰・あらめ其の他で捕へる事になつてゐるが、此の話では曰一人で捕へてゐる。

(五) 「燕石雜誌」の話では計略をもつて猿の王を誘ひ寄せるが、此の話では猿の方から柿が欲しくて、蟹の處へやつて來る事になつてゐる。

(六) 「燕石雜誌」の話では猿は殺されるが、此の話では、わびて命を助けられてゐる。

一々の説明を省くが、文部當局が「燕石雜誌」を去つて「ひなのうけぎ雑字計木」に據つた事は、斯うした兩説話の比較から見ても喜ぶべきである。若し「さるかに合戦」を考慮に入れる時、この改作が、仇討に毒されない元祿の古形態に復歸した點で、非常に慶賀すべき事である。

「さるかに合戦」には猿が三匹書かれ、蟹も複數となり、「まめ蟹」三言ふ蟹まで書かれてゐる。火傷の時に後の話では糠味噌を附ける事になつてゐるが、「さるかに合戦」は水ミしてあるなごも一番素朴である。併し「あらめ入道」が切口上で、「あらめんごうな猿めだ。拙者は庭にひかへませう。」

と述る滑稽なごも認められる。

私の調べた處では、これより古い猿蟹合戦の史料で、纏つた物は未だ見當らない。以上述べた處を一括して猿蟹合戦のより古い形態を考へて見よう。

室町時代の小説に、魚類しやうじんもの精進物の戦争を描いた「精進魚類物語しやうじんぎよものものがたり」(御伽草子)があり、鴉からす・鴛うすの戦争を取扱つた「鴉からす合戦物語」がある。其の作者は關白一條兼良つねよしと言はれてゐる。猿蟹合戦もこれ等と同様に室町時代に成立した話らしく、其の始の形は、猿の眷族くわんぞく・蟹の眷族の戦争物であつて、どちらが善く、どちらが悪いと言ふ様な道德的に明瞭な區別はなかつたらしい。事件の發端は柿の實をもぐ所にあつたらしく、兒童の最も喜ぶ柿の種かきごゑ・焼飯の取りかへつこの場面は、後に附け加へたものかと思はれる。結局猿の一族いちぞく・蟹に味方する者で戦争したが、遂に和睦し、天下泰平になつたと言ふ筋である。この話も古くなる程、「澤蟹さわかかにはさみの介すけ」ミカ「熊蜂くまはちさし右衛門みぎゑもん」なご言ふ姓名が現れ、猿も「八兵衛やへいゑ」なご呼ばれる點なき、それは全く「精進魚類物語」・「鴉合戦物語」なごの作中に見へる姓名の附け方と同一である。

この様な簡単な話が、長い年月に渡つて人の口から口へ語り傳へられてゐるうちに、弱い蟹には人の同情心が集り、猿のやうに單獨にしてしまはず、兒童の生活に割合に近い關係の、栗・玉子・蜂・蛇・庵丁・きね・白・あらめ・牛の糞等をそれぞれの場合に味方してゐるらしい。猿が蟹をだましたミカ、弱い者をいぢめたり、眼前の慾に迷つた言ふ様な道德的の意味、戦争から復讐へ、復讐から典型的な仇討へミ、時代を經過するにつれて變遷して來たものらしい。

猿・蟹の争の原因に就いては、猿・蟹で餅搗をしたミカ、共同して田を耕してゐたミカ、地方によつて色々異つた話を傳承してゐる。猿蟹の焼飯やきいひ・種の交換は、「古事記」の海幸彦うみさいびこ・山幸彦やまさいびこに據つたミカする説や、南洋の島の或民族の持つ話に類似するなきを始めとして、其他に諸説があるが、多くは現在の猿蟹合戦の話が、昔から變化なく傳へられてゐる事を前提として立論してゐる、従つて其の根柢に誤謬が認められる。

猿蟹合戦が日本の小説中に取入れられ、文學的に色々變形させられてゐる。

丹波の國に猿右衛門と言ふ狩人ミ、蟹藏と言ふ飛脚が住んでゐた。「かに藏さこへ飛脚だ。」ミ猿右衛門が尋ねるミ、「猿右衛門久しぶりだ。わしや都へ飛脚にいきます。なんぞ金になる事はないかの。」なきゝ二人は話してゐる。それからしばらくして、猿右衛門は狩に出て深い谷に落ち込んでしまつた。谷から出る事が出来ずに困つてゐるミ、一匹の大猿が助けて谷から引上げてくれた。一方、飛脚に出た蟹藏は、山道で休んでゐるミ、蟹が小判を缺ではさんで出て来て、小判の蟲干をしてゐる。蟹藏はこれを見て喜び、其のうちの五十兩をそつミ失敬してしまつた。そして此の金子を資本にして酒屋を開業した。一方狩人の猿右衛門は命を救つてくれた大恩ある大猿を銃殺して、それを百兩で賣つて、その金を資本として兩替屋を始めた。弘法大師は諸國を御まはりになり、猿右衛門の門口に立つミ、猿右衛門は妖術を遣ふ坊主と思つて、箒で打擲した。弘法大師は猿右衛門の店の番頭喜八の父親の喜右衛門方に宿つた。弘法大師は喜右衛門の息子の喜八に米粒を與へて、これを主人の猿右衛門ミ、隣の酒屋の蟹藏に壽命の藥になると言つて飲ませよと教へた。喜八の言葉信じて壽命の藥と思ひ、米粒を飲んだ猿右衛門は、本物の猿になつてしまつた。蟹藏もこの米粒の爲に本物の蟹になつてしまつた。澤のほこりで、弘法大師は蟹藏が變化した蟹に燒飯を與へた。猿右衛門が變化した猿は御所柿の種を持つてゐる、蟹は燒飯を猿の種と交換した。蟹は御所柿の種を植えた。柿の木は成長して實がさつさりなつた。この柿を取る時に、蟹は猿に澁柿を投附けられ、それが原因で病氣になつた。白右衛門、杵の入道、あらめ次郎、玉子ふわの丞なきは、蟹に同情し、猿をひきい目にあはせて復讐をした。これは實は猿右衛門ミ蟹藏の夢であつて、二人は同時に同じ夢を見た事に驚き、弘法大師の前で今までの悪行を懺悔した。命を救はれた恩ある大猿を撃つた猿右衛門は、丹波の國の殿様の笹山殿の御叱を受けたが、弘法大師の御諭で命は助かつた。蟹藏も蟹から奪つた小判をかへ

した。猿右衛門が銃殺した大猿の皮は笹山殿から弘法大師に贈られたので、大師は、「如是蓄生發菩提心」を唱へて回向なさるゝ、怪しいかな大猿の姿が朦朧として現れ、喜びの舞を舞つた。猿右衛門は一念發起して弘法大師の御弟子になつた。

これは「蟹は金猿は榮」かにかねざるさかえと言ふ小説の筋である。今から百七十八十年昔の寶曆頃に出版の小説であつて、挿繪は鳥居清信の筆である。猿蟹合戦はこの他にも小説中に取入れられてゐる。

要するに我々の祖先は、その時代時代に於て無意識的に國民童話に少しづゝの改作を行つて來てゐる。童話の變遷からすれば、必ずしも、

「後世の書物なごから引つばつて勝手に改作するは面白くない。」

と言ふ様な主張に同意する事は出来なからう。(了)

童話

燕さんのエプロンのお話

武田雪夫

これは、燕さんのエプロンのお話なのですよ。

この頃は、ほんきに大へんあたゝかになつて來ました。春になつたのですね。

ですから、燕さんたちが、また歸つて來ました。昨年の秋から、あたゝかな南の國へ行つてゐた燕さんが、みんな歸つて來たのですよ。

昨年住んでゐた巢を忘れないで、ちゃんご自分の巢のまゝころへ歸つて來ました。

でも、ながいこゝ留守にして、あけておいたのですから、巢は、ずる分よごれてゐました。それに少し、こはれてゐました。

「さあ、それでは、なほしませう。」

「ええええ、早くなほしませう。」

父さん燕ご母さん燕は、さう言つて、すぐに巢をなほしはじめました。

あちらこちらから、泥をはこんで來て、

「そろそろ、こころ、入つて来たか。」

「ほらほら、こころにも、入つて来たか。」

巢のこはれたこころへ塗つて、上手になほしましたよ。

それから、巢の中も、きれいにきれいに掃除をしました。

まあまあ、立派に、巢のなほりましたこと。

その時、父さん燕が、よく見ますミ、母さん燕のお胸のこころの白いエプロンが、泥でベトベトによごれてゐます。

「おやおや、エプロンが泥んこですよ。」ミ、父さん燕が言ひました。

こころが、こんごは母さん燕がよく見ますミ、父さん燕のお胸のまつ白なエプロンも、泥でベトベトによごれてゐます。

「まあまあ、あなたのエプロンも泥んこですわ。」ミ、母さん燕が言ひました。

そして、二羽の燕さんは、

「あはあ。」、「おほほほ。」ミ、大わらひをしました。

「それでは、これから、エプロンのお洗たくに行きませうよ。」

「え、え、行きませう。」

さう言つて二匹の燕さんは、スイスイ飛んで行きました。

さあ、さこへ飛んで行つたんでせうね。

はい、小川まで飛んで行きましたよ。

そして、父さん燕と母さん燕は、小川のチヨロチヨロながれの浅いところへ入つて、ピチャピチャエプロンを洗ひました。

燕さんのエプロンは、お羽根のエプロンでせう。ですから、そのまゝ、はづさないで洗ふのですよ。

父さん燕のうまく洗へないところは、母さん燕がお手づだひして洗つて上げました。それから、母さん燕のうまく洗へないところは、父さん燕がお手づだひして洗つて上げました。

その時、よく見ますよ、父さん燕も母さん燕も、二匹とも、くちばしやお顔に泥がついて、きたなくなつてゐましたから、ついでにチャブチャブと上手に洗ひましたつて。

はい、これで、燕さんのエプロンのお話はおしまひです。

春の歌

— その二 —

曾 根 保

英語に顯れた佳麗な唄や抒情詩を蒐めた選集の数は非常なものであるが、中で特に光つてゐるのは、一八六一年に初版を出し、九一年に終極版を出したバルグレイヴ (F. H. Palgrave) の『金玉集』(The Golden Treasury)であらう。編者バルグレイヴは一八八五年から九五年までオックスフォード大學の名譽ある詩學講座擔任の教授で、また時の桂冠詩人 (Poet Laureate) テニスンに特に親交のあつた人である。従つて『金玉集』出版に關しては、幸ひにも當初から詩人テニスンの贊同と援助とがあつた。一八六一年に言へばヴィクトリア女王の即位後既に二十四年を経過し、テニスンやブラウニングも當時既に詩壇に聞えてゐたが、同集の選擇が當時故人となつてゐた人々の作品からすることになつてゐたため、遺憾ながらこれらの巨匠の作が漏れ

るこゝまなり、實際選まれた詩歌の年代は十六世紀の中葉から十九世紀の初頭までに限られてゐる。それで編者歿年の一八九七年に第二篇を出して初篇の遺漏を補ひ、主としてヴィクトリア朝詩人の抒情詩の選擇を行つたのであるが、これは不幸にして世の歡迎を受けるに至らなかつた。三百餘年に亘つて高雅な詩眼を馳せ、縦横に普く涉獵して丹念に蒐集した詩歌をバルグレイヴは、たゞ作者の生年又は歿年を規準にして羅列したのではなく、全部を年代的に先づ四分し、各作品の内容と形式とを參案して、我が國の歌合に似た類別法に依り、更に之を配置した。この點が編者苦心の存するところで、又同時に『金玉集』初篇を英國詩歌選集中の白眉たらしめたのである。今日マクミラン會社から出てゐる本には第二篇を考案してビニョン氏の編んだ

「第五卷」が添へてある。所謂「新しい詩」を求めるところは出来ないが、英詩鑑賞の入門にはこの『金玉集』一本を必ず備へなければならぬ。

さて『金玉集』の巻頭を飾るものはトマス・ナッシュ(Thomas Nash, 1567-1601)の『春』を題する抒情詩である。ナッシュはシェイクスピアやマローロウ同時代の人で、不羈狷介の性行のために世俗を争ひ、友人を相容れず、さかしく窮乏の中に身を置いて得意の毒舌皮肉を恣にした所謂「大學出の才人」(University Wit)である。サフォクの海邊ロウストフトに生れ、ケインブリッジ大學で四年間學び、一五八六年B・Aを得、イタリー旅行から歸つて、一五八八年以後ロンドンに居を定め、グリーンやビールなごみ共に文筆の事に従つた。専ら批判と諷刺を事としたが、時には劇をも書いた。今日残つてゐる彼の劇としては『ウィル・サマ一の遺言』(Will Summer's Testament)を題する一篇に過ぎないが、ナッシュが今日一般に知られてゐるのはこの喜劇によつてではなく、その中に挿入された小曲『春』の歌によつてなのである。シェイクスピアが大學出でないの

彼を輕蔑したナッシュは、『春の歌』によつてやうやくその名を知られてゐる有様だが、輕蔑されたシェイクスピアは遙に有名になり、遙に偉大な業績を影響を遺した。全く運命の皮肉である。

SPRING

Spring, the sweet Spring, is the year's pleasant King;
Then blooms each thing, then maids dance in a ring,
Cold doth not sting, the pretty birds do sing,
Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-witta-woo!

The palm and may make country houses gay,
Lambs frisk and play, the shepherds pipe all day,
And we hear aye birds tune this merry lay,
Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-witta-woo!

The fields breathe sweet, the daisies kiss our feet,
Young lovers meet, old wives a-sunning sit,
In every street these tunes our ears do greet,
Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-witta-woo!
Spring! the sweet Spring!

詩型は各行主としてマイアムニック (iambic)——但し第一行の Spring the dance in' せむから Cuckoo なのはトロキティック五韻脚 (5 feet) から成り、第二韻脚の後に休止を有し、そこにも中間の押韻があつて、一行が二分された形になつてゐる。第一スタンザでは Spring, king, thing, ring, sting, sing。第二スタンザでは may, gay, play, day, aye, lay。第三スタンザでは sweet, feet, meet, sit, street, greet が韻を踏んでゐる。sit だけは不完全韻であるが、短い詩の中によくもかう押韻をせたものだから感嘆の外ない。各スタンザに鳥の啼聲の擬聲 (onomatopoea) が一行加はり、最後のスタンザには更に餘分の一行が添へてあつて、締めくくりになつてゐる。

第一行の king がいふのは至高最上のもの、意は、the year's pleasant king は一年中で一番愉快な季節 (spring) だ。Then だ「その時」、即ち春。blooms each thing は「あらゆるものが萌え出だす」。each = every. blooms each thing は倒置法が用ゐられてゐる。maids = maidens, young girls in a ring だ輪を成して。Cold doth not

sting は骨身に沁むやうな寒さが去つたから云ふ。

doth = does. do sing の do はリズムのためのたゞの添 (ハ) のだ。Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-wita-woo 云々も小鳥の啼聲を模した語で、cuckoo は朝公、jug-jug は nightingale (夜啼鸞) の啼聲、pu-we (pu: wí:) の to-wita-woo (tu: wí:wí:) が何鳥の啼聲でもよかは註釋家の間に議論があるが、pu-we は鶇の一種 peewit 即ち plover. to-wita-woo は英國の一番多く、blackbird つか thrush つか云つた鶇の類の啼聲を示してゐたものであらう。因に nightingale は、キーツの詩で特に有名な鳥になつてゐるが、色や形は日本の鶇に似てゐても、啼聲は全く似てゐつかぬ迫つた、鋭い調子ださうで、筆者なら英國へ行けば是非とも耳に聞いて來たい鳥の聲の一つである。尤もレコーダがついてゐるから、それで當分間に合はせて置くより仕方がない。

第二スタンザの palm だ、palm だ、palm だ、palm だ、cat-kin (「さし」を出した「ちんぎん」) (salix caprea) の俗稱。may = hawthorn 「ちんぎんの花」。五月に咲く花だから一

may ㄎㄨㄥのじゆゑ shepherd ㄒㄨ shep (sheep) に herd (guardian) がついた字じ。 Jepad の發音もふ。 aye [ei] = ever, always. tune ㄒㄨㄥㄥのじゆゑ sing ㄎㄨ 同意義。 lay = song.

第三スタンザ——fields breathe sweet「野が香はしく息づく」は春の野に薫風の漂ひ流れるのを云つたもの。 sweet (= fragrantly) は詩じゆゑある形容詞の副詞的用法。

wives = women a-sunning sit ㄒㄨ sit basking in the sun. tunes = songs. our ears do greet は [do] greet our ears (耳に入る) を押韻の都合で轉置したもの。 do は

たゞの添へつたば。 greet = accost. please.

春

春、怡しい春は一年中の最上の季節だ。

物みな萌え出で、乙女子は輪になつて踊る。

身に泌む寒さも去り、綺麗な小鳥が囀る——

クックウ、チャグチャグ、ビューウィー、ツウィッタウ

ー。

猫柳や山櫨の花咲き、田舎家が華やかになる。

仔羊はざれ遊び、羊飼は日がな一日笛を吹く。

吾々はいつも小鳥がこの怡しい歌を歌ふのを聞く——
クックウ、チャグチャグ、ビューウィー、ツウィッタウ
ーといふ歌を。

野邊の風薫り、雛菊は歩む足に接吻をする、

若い戀人達は相會し、婆さん達は日向ぼっこをする、

この町へ行つても聞えてくる、この歌が——

クックウ、チャグチャグ、ビューウィー、ツウィッタウ
の歌が。

春よ、おゝ怡しい春よ。

この春の歌にはエリザベス朝獨特の陽氣さ、長閑さが漲つてゐる。歌の調子そのものが明るくて、「楽しい英國」

(“merry England”) の人々の田園的春の陽氣な氣分乃至

生活を遺憾なく反映してゐる。昔から今に至るまで、春を

主題とした歌は數知れぬほゞ多數である。しかもナツシユ

の春の歌よりも偉大で、深みのある、優れた歌も尠くない。

例へば同じ『金玉集』の中にあるもので、グレイの Ode on

the Spring ショリーの Dream of the Unknown ヌー

ヅッスの Lines written in early Spring など、その一

例に過ぎないが、何れにも一沫の寂しさ、哀しさが漂つてゐて、眞の陽春の歡喜といふものは求められない。現代人の氣分からは遙かに遠い感じがするが、そこに特色があり一種言ふべからざる魅力があるのである。愛すべき春の歌の一つとして推奨するに足るものであらう。

春の景物を中心として春を歌つたもの、即ち「駒鳥」、「董」「黄水仙」、「郭公鳥」、「雲雀」、「櫻」などを除外し、標題に「春」、「春の朝」、「三月」などを記したものを、手許にある本の中から拾ひ上げてみるに、前に掲げたもの、外にワーズワスの *Written in March*、ブレックの *To Spring*、*Spring Song*、*Spring*、ルイス・ホルスの *Ode on a Fair Spring Morning*、バーンスの *A Spring Song*、メマリ・ハウィットの *The Coming of Spring*、メンテ・ロロソンの *Barren Spring*、クリスチナ・ロロソンの *Spring Quiet*、ロート・ブリッヂェズの *Spring Goeth All in White*、*Spring*、アリス・メイネルの *In Early Spring*、チャイスの *Early Spring* 等々がある。この中特に目立つて美しく、恐らくすべての人の愛誦可能な歌はブリッヂェズの *Spring Goeth All in White* である。

SPRING GOETH ALL IN WHITE

Spring goeth all in white,
Crowned with milk-white may:
In fleecy flocks of light
O'er heaven the white clouds stray:
White butterflies in the air;
White daisies prank the ground:
The cherry and hoary pear
Scatter their snow around.

て國に奉じたばかりでなく、綴字法に、發音に、習字に多

ロバート・ブリッヂェズ (Robert Bridges) は前の桂冠詩人で、イギリスの傳統的詩魂を最も豊潤に繼承してゐる點に於て實に第一人者であつた。一八四四年十月二十三日、ケントのドウヴァに近いウォルマーに生れ、一八五四年から約十年間をイートンで過した。後四年間オックスフォードのコーバスクリストテイ大學で醫學を修め B・M・を得て卒業し、ロンドンで實地臨牀の研鑽を積んだが、後文學に没頭

し、晩年、オックスフォードの西南ボアアが丘を永住の地と定め、一九三〇年四月二十一日没するまで二十有餘年間、詩作に、講演に、すばらしい文學的活動を續けた。常に舊套を打破し、新體を拓いて清新の思想感情を歌ひ、典雅にして透명한風格をもつ桂冠詩人となつた。

大の興味を關心を有し、國語美化の實際運動を起し、又詩形の學に造詣深く、批評家としても名が高し。

詩型は各行主としてアイアンビック三韻脚から成り、交互に押韻する (white, light; may, stray; air, pear; ground, around) 四行のスタンザ (stanza) 二つから成つてゐる。第一スタンザ第二行の Crowned ([krɔ:nd]) 第二音節に讀む) の第二スタンザ第四行の Scatter (はトロロケイク、又第二スタンザ第一行の in the air はアナビースティック(弱々強)となつてゐるが、全體を貫くりズムはアイアンビック即ち弱強の上昇リズムである。

標題 *Spring Goeth All in White* は第一行をそのまま

取つたものであるが、「春が白無垢の裝束で行く」が文字通りの意味。我が國でも佐保姫なきいふ如く、春を擬人化して、過ぎゆく白衣の麗人に見立てたのである。geeth [gə:it] は古文、擬古文、詩などに用ゐられる go の三人稱單數形。all in white は「白無垢の衣を着て」、a woman in white からは「白衣の女」。Crowned with (何か冠つて、頭に頂つて)。may = hawthorn, in fleecy flocks は「羊毛の塊の様になつて」から「羊群になつて」、「羊群

のやうだ」の意。fleecy flocks には「ちらちら音のマルチレイシモン (alliteration 頭韻) がある。in は「……になつて」。of light is of gold なかゝ同様、よく詩に用ゐられる語彙で、bright, luminous の意。Over [oe, o:] = overprank = deck, adorn, cherry は西洋櫻で花は白なのである。hoary = white, snow は雪の様で白く花びらのつら。

白裝束の春は行く

白裝束の春は行く、

乳白の山櫛さんざしの花を頭かしらに。

白雲は空にさまよふ。

輝ける羊の群ぐらううち群れて。

白き胡蝶は空に舞ひ、

雛菊白く地を飾り、

櫻と梨の白き花

雪がまがひ散りしけり。

山櫛の花も、雲も、蝶も、雛菊も、櫻の花も、梨の花も、

ひらひらして白からぬものゝない地上一面空まで白

色一色に輝き匂ふ英國の春の景色、それを白衣逍遙の麗人

に擬したこの素朴溫雅な自然詩の中には、何處もなく作者

ブリッヂェズその人の面影が偲ばれる感じがする。(續く)

山姥と三人の娘

解説

東京女高師附屬幼稚園

この話はあの有名な「七匹の仔山羊」に大層よく似て居ります。我が國にも、あれを全く同じ構想のものに作られた話が、所謂日本童話として昔から傳へられてゐたのでした。これが近ごろ作られた話ならば、たゞ眞似ごミミして何の興味もありませんが、日本昔話として傳へられて來てゐるのですから、單に、よく似てゐるだけで、かたづけられないやうな氣もいたします。世界各國の童話の問題としていろいろの考察が生れてくるを考へられますが。然しそれは又その方面の研究として、こゝには年長組の談話材料として、この話を御紹介したいと思ひます。但し、グリムの方は、動いてゐるのがみな動物、即ち山羊であつたり、狼であつたりするので、幼い子供にこつては怖ろしい感じが起りません。食べられてしまつた云つても話として客觀視してゐられる點が、童話として上乘でありませう。ところが、此の方になりますと、人間が動いてゐるので、すべての點が、子供にこつてあまりに近き事柄を身に感じますから、怖ろしい感じはこゝによる前のよりは深いかと思ひます。この點、大人から考へて残酷であつたり、子供に恐怖を起させそうな懸念のこゝろは幾分改作しておきましたが、それにしても、この子は斯う、この子は斯う、一人一人の子供の精神生活をよく知つてからこの子ももう大丈夫、この位の話をして懸念が無いといふ見透しがついてから、この話是用ふべきでありませう。

幼稚園でも年長組になるに、他愛の無い話では、きいてはゐて呉れますが、この子の顔にも呆氣ない云つた氣配が見えて、今度は喜ぶ話を探して見ようを考へずにはゐられなくなります。羅生門なごも随分躊躇してゐましたが

面白がりこそすれ、心配はいりませんでしたから、この位の話は却つてよろしいかと思つて、こゝに御紹介いたしたわけでございます。(新庄)

* * *

野原の真中に一軒家がありました。

この一軒家には、お母さんと一緒に月子、雪子、花子といふ三人の姉妹ミが住んでゐて、みんなで、毎日島に出て働いて暮して居りました。

或る日のこゝ、お母さんは急に御用が出来て、遠いゝ所に買物に行かなければならなくなりました。そこでお母さんは子供達にきいて見ました。

「お母さんはね、これから町の方へ出かけて來ますが、三人でお留守番が出来るかしら。」

「えゝ出來ますよ。」

「遠いから、今夜はおそくなるかも知れませんが。」

「えゝ、大丈夫よ。」

「ではみんなで仲よくお留守番をしていらつしやいよ、お戸棚にお菓子もあるし、晩のおかずも出來てゐるから」

ね」

「では行つていらつしやい。」

お母さんは、風ろしきを持つて出かけて行きました。しばらく行つてから、あはてゝ又歸つて來ました。

「あのね、忘れてゐたこゝがある。この山奥に、こはい山姥が居るでせう。」

「えゝ、時々出てくるつて云ふんでせう。」

「さうさう、その山姥がね、若しかするミ、お母さんの留守にやつて來るかも知れないの。」

「あら怖いわ。」

三人は思はずお母さんに飛びついてしまひました。お母さんは笑ひながら

「なアゝに大丈夫よ、山姥はミても聲が太くてざら聲ですよ、細いきれいな聲だつたらお母さんなの。」

「では聲が細くてきれいだつたら戸をあげませうね。」

「でもね、すぐあげてはいけません、手をよく見るんで」

すよ、手がざら／＼してゐたら、山姥ですからね」

「さうだわ、お母さんの手はつる／＼してゐるんですけどね」

「では、お聲が綺麗で、手がつる／＼してゐたら戸を開けませうね」

「では月子姉さん、よく氣をつけて下さいね」。お母さんはかう云つて、町に買物に出かけて行きました。みんなは、お母さんの姿が見えなくなる迄お見送りしてから、家にはいつて、戸をビシヤリ閉めて、三人でお話をしてゐました。

「山姥なんて、ほんまに來るでせうか」

「來たつて大丈夫よ、聲が太くて、手がざら／＼してゐたら、この戸をあけなけりやいゝんですもの」

その中お山の方から、山姥がのそ／＼出て來て、この軒家の近くに來ました。そして、一寸のぞいて見たら、

お母さんが居ないようです。山姥は、

「あゝ、子供ばかりでいゝ鹽梅だ、お母さんの眞似をして、一つ、はいり込んでやませう」

ミ云ひ乍ら戸を／＼たゞいて

「お母さんが歸つて來ましたよ、早く戸をおあけなさい」
ミ太い／＼／＼で云ひました。

「あらお母さんが歸つて來たようよ、でも聲が太いからきつミ山姥かも知れない。もし／＼お前さんは、山姥ですよ、お母さんの聲は、鈴のようにきれいな聲ですよ」

山姥はこれはしまつたミ思つて、近くの竹藪に出かけて行つて、笹の葉つばにたまつてゐる露を集めて、それをなめてゐました。これで聲がすつかり綺麗になりました。そうして又出かけて行つて、

「お母さんが歸つて來ましたよ、早く戸をあけて下さい」
ミ優しい聲でいひました。

「あらほんまのお母さんよ」

ミ云ひましたが、お姉さんの月子さんが、

「ほんまのお母さんなら、手を一寸出して見せて御覽」
ミ云ひました。山姥はうっかりニウツミ手を出しました

が、月子さんが見るミ、毛だらけで、ざら／＼してゐるではありませんか。

「あら、お前はやつぱり山姥ぢやないの、お母さんの手

はつるくしてゐるのよ。」云ひました。山姥は又しくじつたと思ひましたが、いろく考へて、畠に行きました。そして、お芋の葉つばを一枚ちぎつて、片方の手をく

るりこ上手に包みました。そして、出来るだけ優しい聲で、

「お母さんが歸つて来ましたよ。早く戸を開けてお呉れ」

三人の女の子は

「手を見せて御覽」

云ひましたからぬつこ手を出しました。今度はつるつるしてゐましたので、三人共大喜びで、

「あら、お母さんだく」。云つて戸をあけました。山

姥は、いきなり家の中に飛び込んで、三人を捕へようさしました。月子と雪子は、やつこ逃げ出したのですが、花子だけ、たうく捕つてしまひました。

「やれく、やつこ捕つた、たつた一人だけさ仕方がない。

あんまりお腹が空いてゐるから食べてゐるひまは無い」

こ一口にバクリと呑み込んでしまひました。逃げて行つた月子と雪子は、ぎんく駈け出して、井戸の側に來ました。そこに大きな木があつたので、物置から、鎌を持つて

來て枝にひつかけく二人は夢中になつて、この木に登つてかくれてゐました。

「あら、花ちゃんが居ないわ」

「さうしたんでせう」

「山姥に捕つたかも知れない、さうしたらいゝでせう」

木の所で、二人で大變心配してゐました。山姥は、花子のをのんでから、まだ外に居た筈だと思つて、家の中を探したのですが、見つかりません。外に出て探してゐるこ、井戸が居る子供のかげが井戸にうつりました。山姥は怖い顔して

「お前達は、さうして、その木に登つたんだ」

と睨みつけました。月子さんは、りかうですからすぐに

「油をかぶりかぶり登つたんですよ、さうして御覽」

云ひました。山姥は、すぐに油壺を探して來て、油をかぶりく、木に登り始めました。けれど、油ではぢきに上つてしまひますから、山姥は、一足かけるこ、ズドンと地面にすべつて落つこちてしまひます。又立ちよつて登りかけるこ、油が上つて、つるくこころげ落ちてしまつて

さうしても木には登れません。何度もくお尻もちをついて、しまひました。山姥は、始めて、だまされたき氣がついて、大變おこり出しました。

「お前達は、よくも私をだましたナ。ほんこの事をお云ひ。云はなげりや木を伐り倒して、二人も食へてしまふよ」。ミ大怒りににらみつけました。するに、月子が止めるのもきかないで、雪子は、びつくりしてしまつたので

「ちや、ほんこの事を云ふから、木を伐るのは止めておくれ、鎌をひつかけく登つたのよ」

ミ云つてしまひました。山姥は

「なるほど、さうかい、それはいゝ考へだ」

ミ云つて、大きな鎌を物置から取つて来て、木の枝にかけては登り、かけては登りして、段々二人に近くなつて来ました。二人はもう怖くてく、ぶるくふるえて、二人で、木にしがみついてゐました。もうぢき届きそうになりましたから、月子は夢中になつて、手を合せて、拜み乍ら

「天の神様、さうぞお助け下さい。鎖を下ろして下さいませ」。ミお願ひしました。下からは山姥が毛だらけの

手をのばして、今にも月子ミ雪子の足をつかまうしまししたら、急に雷光がピカツミ光つて、山姥の目はぐらくミしました。するに忽ち一筋の丈夫な鎖が天から下りて來ましたので、二人は大喜びで、その鎖にミびつきました。これを見て、山姥はもう一息きで、二人を捕へるミころを、さり逃がしましたので、口惜しそつに見つめて居ました。そして山姥も眞似をして、

「天の神様、さうぞ私にも鎖を下ろして下さいませ」

ミお願ひしました。するに又一筋の鎖が天から降りて來ました。山姥は大よろこびで、鎖にミびつきますミ、鎖はずんくへくミ上つて行きました。

ミころが、山姥の鎖は本當の鎖では無くて、腐れ繩でしたからたまりません。上に上つて行く途中でブツツミ切れてしまつたからたまりません。山姥はすつてんころりんミ地面に尻もちをついて、おちてしまひました。其拍子に、今迄丸のみにしてゐた花子さんが、ピョンミ飛び出しました。之を見て喜んだ月子さん雪子さんもやがて上の方から降りて来て、三人揃つて、お家に歸る事が出來ました。

教育界の轉向と保育

大阪、若葉幼稚園長 竹中良治 郎

智育偏重打破は日本精神の強調と共に刻下の流行語の如き感があつて少しく教育に携る者の殆ど異口同音に叫びて居る所である。其結果大楠公の銅像を校庭に建設したり神社の參拜を奨励したりしてゐる。誠に結構な事で智育萬能教育から轉向して精神教育に國民の教育的基礎を求めつゝあるのは國家百年の計として吾人は雙手を舉げて贊意を表し度い。しかし單にかゝる種の企てのみではたして智育偏重の弊が打破され日本精神が真心に植付け得るであらうか、一體智育偏重打破、日本精神高調なきが今更ながら新しい問題として叫ぶのが不思議な位で少くも日清戰爭を終つた頃の我が教育界にはかうした運動があり人格主義の主張が存してゐた。尙ほ誠に畏れ多い事だが教育勅語の御主意もこゝにあるのではないか、又近くは幼稚園令設定當時の文相の訓令にも設備なるも保育當事者の人格に重き

を置く意味の人格主義が現れてゐる。然るに日本の教育家は國に精神主義を唱へつゝ實行して來た所には智育に全力を傾倒し尙ほ足らぬと云ふ様な感があつた。其結果一藝一技には秀でゝゐるが意志も情操も乏しい人間が出來上る。現代の如く高位高官にして社會の木鐸となるべき士が縲纆の辱を受けたり、所謂高等教育を受けた婦人がさもすれば人間の榨も槽の如く水氣のない人間味皆無の人物を輩出するに至つた。かうした社會に危険思想や姪祠邪教の横行するは當然と云ねばならない。だが一面から考へるに我が國の教育がかゝる缺陷を辿り來たこと云ふ事も亦寛容すべき理由があること云ねばなるまい。何となれば我が國は明治開國以來其物質文化に於て歐米諸國より遙かに遅れてゐた。これが進歩完成は國家自衛上必須の事で一日も等閑に付せ得ぬ重大な問題であつた。だから吾人の先輩は此の遅れてゐる

る日本を歐米並みの水準に引き上げんことを不斷の努力をなして來た。其の爲め歐米の精神文化よりも手取早く目に付き直ちに役立つ物質文化を多く歓迎してこれに滿身の力を致したのであつた。その努力は酬ひられ日清日露の戦勝となり更に現代の躍進を世界に現出せしめた。

故に此方面から云へば智育偏重もあながち頭から排斥し去るべきものではなく否な却て感謝すべき點がある。一體國家も個人同様さうく一時に兩事を完全に受け入るゝのは困難である。それも坦々たる行路を進むならいざ知らず過去半世紀の日本の如く諸事萬端不備にして、しかも列強の重壓もすれば我が頭上に至らんことを際し、これに對應するには勢かうした偏重な教育になり易いのである。だから前にも云ふた様に教育勅語は暗誦しても其御主意の實行は之れをなさんともせず神社に參拜しても日本固有の美しい禮節から離れたりしてゐる。要するに見える物質的教育に急にして見えぬ精神的教育は口にしつゝ實行が出来なかつたから形式化して仕舞たのである。若し此の方面から現代日本の教育を一語にして云へば形式化教育と稱する

も過言ではない。一切が形式である、燦爛として美しいがそれは魂のない外形的な教育である。衣の教育であつて命の教育ではない。しかし今や日本は所謂草創とも云ふべき域を脱し守成又は進出の時代に到達した。故にいつ迄でも過去の教育法に甘ずべきではなく何等から轉向を要求する。

京都や奈良の博物館には名匠の手になつた多數の國寶級の古佛像が群立してゐる。だが其等に對して何人も合掌したり禮拜する者はない。しかし例へば凡庸な名もない佛師の作つた佛像でも寺院に安置されてあれば多くの歸依者がある。否な寺院でなくとも路傍の粗末な石神さへ合掌される。要するに前者は美の對照の一美術品に過ぎぬが後者は生命の對照たる超物質的なものとして敬せらるゝからである。されば美しい形式も或場合には必要だが更に求むるものは偉大な生命である。大楠公銅像の建設、神社の參禮其他それに類した事は誠に結構であるが若し徒らに形式に走り其精神をつかめなかつたら博物館の古佛像に等しいものである。されば色々な企てよりも根本的でありかつ必要なものは教師の人格で、教師が強い正しい明るい生命を把持する

ここである。かうした生命の力があるならば兒童の精神は自から陶冶さる事は必然である。

顧みて現代の保育は如何、何等か一方のみに偏重はしてゐないであらうか。其多くが形式化してはゐるまいか。吾人は常に主張するが如く幼稚園に於ての手技も遊戲も談話も觀察も皆な保育達成の手段であり經程に過ぎない。其自體が決して窮極の目的ではない。かうしたものを通して幼兒の智情意を圓滿に平等に發達せしめ生命を充實し生活を豊富になさんとするにある。然るにこもすれば遊戲や手技に留り其等による保育を云ふことを忘れ、徒らに情的に或は智的に偏重はしてゐるまいか。又一體さんな幼稚園でも歴史あり方針あり主義がある筈だ。保育はかうしたものの上に築かれる従つて遊戲も手技も其れから割り出されるので、いかに個性を重んずるに雖此の條件は無視する譯に行かぬ。然るに現下の手技に例を取つてみれば、保姆には手数が掛らず面倒でなくつてよいかも知らぬが、組立てるばかりの

商品化した手技材料を購入し以て手技を濟ませてゐるものが多い。それは出來上りは美しからうが保姆の魂が入つてゐないし園の生命も現れてゐない。園の特質主張方針に基づき頭を捻つて工夫し一枚々々缺を入れて準備してこそ保姆の魂を入つてゐるのである。無論作品は外觀上拙劣かも知れないが其中には生命があり生きてゐる。恰も印刷した繪畫を肉筆のそれとの差がある。さうした作品を通じて保姆の魂を幼兒の魂が結ばれ幼ない魂が健全に育つて行く、そこに、外觀のみ美しい佛像でなくして歸依者のある魂を持つ佛が出来る。形式でなくして潑瀾たる生命が見出される。

偏重より普遍へ、形式より生命へ、これが現代保育の轉向すべき道程ではあるまいか、しかもこれは決して新しい事ではなく常に唱道されつゝ單に行ひ得なかつた所である。故に本年度こそはこの方向に勇往邁進せねばならない。

感想二つ

菊池ふじの

歐米の模範的な幼稚園が皆そうである様に、私達のこの幼稚園も、研究室云ふものを持ち度いことは、新建築が出来てお引越した當時、みんなで思つた事だったのである。けれども、新しく出来上つた幼稚園は六萬云ふ資金が投ぜられてゐるにも拘はらず、室数は、あのバラック時代と殆んど同じ位の數で、さうしても研究室云ふ、目の必要は、ちまかけ離れた部屋を用意出来るだけの餘裕が無いのだ。

何か研究の必要があれば、職員室の各々の机でもしてゐたし、又子供が歸つた後の自分の保育室でも出来るし、そんな事で、當座の必要は満たされて來たし、又職員室内の和やかな氣分の中で働き、そして休息をこり、慰安を得てゐた私共には、當初の念願であつた研究室の問題は、いつの間にか解消してゐた。

けれども、倉橋主事のお氣持の中では、この問題はちつとも解消としては居られなかつたのであらう。今までも時々先生のお口から、さうかして衛生室を、研究室を云ふお聲が洩れてゐた。その洩れてゐたお心持が遂に形になつて外へ現れる事になつた。即ち、今までの種々のお部屋を模様がへして新たに研究室を生み出す事になり、その工作が施されこの四月からいよく、消えつ、もたげつしてゐた研究室は生まれる事になつたのだ。

扱て、研究室には誰がは入るのだらう？と獨りで質問を試みて見た。勿論子供ではない。して見るに、實習科の生徒か、吾々職員の保母であるに決まつてゐる。學意を出てからの今までの長い年月、實社會に出て、實際的ないろいろな業務に携はつての必要から、時にはさゝやかな研究の眞似事みたいな事をしないでもなかつたのに、今、獨立し

た研究室を持たせていたゞく言ふ事になるが、何きなく面はゆい心持がしてならぬ。

さあ、その研究室開きのその日は、扱て、何の本を開いたらいゞだらうか、ゆかりのその第一日に繙く本は、この本が一番似合ふだらう、ミ獨りで子供らしい考に耽つて見たのである。

幼稚園の始祖、フレーベルの著書「母ミ子の遊戯」だらうか、それとも「人の教育」だらうか、それとも「エミール」だらうか。

これ等のごの本も、細々とした點まで私を啓發してくれた事は確かだ。けれど私はその由緒ある研究室の最初の日に讀む本ミしてやはり、デュウイーの教育哲學概論を思つて見た。この本は、私が高等師範の三年の時の一夏を、この本の精讀にさゞげたものだつた。その頃まで私は、獨逸のカントやヴントに大いなる興味を持つてゐた。そして朝の默學の二時間を、他の何物をも顧みずに、カントの研究（大げさな言分だが）に捧げたものだつた。一日中の最も頭のクリーアーな時をカントに、ミ云つた肅然とした心

持で。あの難解なカントの哲學は、そうやすくミは讀みおほせなかつた。或時なき、三行の言葉の意味を了解する爲に二朝も考へつゞけた事もあつた。かうして、カントの哲學を代表する實踐理性批判、純粹理性批判は讀み終へた。この二大著書を理解する爲に、プロレゴミナ、哲學入門等ミ云ふ小著も數多涉り讀みした。かくて、カントの三大名著の一、判斷力批判に移らうミしたが、さうしても邦譯が見つからない。文獻では邦譯がある事になつてゐた。いくら神田の本屋を軒竝に覗いて見ても見つからない。さうさうして遂に、カントの「美」に對しての意見には未だに接しないでしまつてゐる。今、たミへその本が手には入つたにしても、あの難解なカントの文章は今頃果して了解出来るだらうかミ、自らいふからざるを得ない。

この頃、カントミ一緒にヴントの心理學も讀んで見た。分析的なこの構成主義の心理學に、カントの哲學ミ共通な或るものを感じないでは居られなかつた。これミ對照的に英國の經驗派の哲學も、氣の向かないのを、引き立てなが

ら之も勉強の爲に思つて、多少は開いて見た。けれども私には、さうしても經驗派のものには、心から好きにはなれなかつた。哲學に「好き」等云ふ言葉は許されるべきではないのであらう。私の踏み入つた哲學の分野は、實に「好き」云ふ言葉を用ゐて丁度似合ふ位のごく入口で、私は決して哲學したのではなかつたと思つてゐる。倉橋教授の教育の時間であつた。いろ／＼のお話の中に、「カントを感情を以つて讀む」云ふ様の事を言はれた事があつた。私はこのお言葉を伺つた時、私等實にそうださ心中の中で、大きく頷いたのを今でもはつきりと思ひ出す。あのカテゴリヒ、インペラティブ（無上命令）の言葉は、あの頃の私の胸に、みんなにみんなに嚴肅にひびいた事であつたらう。

けれど、内に顧みて、カントにしてもヴァントにしても、一人の人間の精神活動が、かくも分析的に働くものだらうか、少しづつ疑問を持ち始めて來た。この時、さういふ手引きでは入つたのか、今はその経過がはつきり思ひ出せないのであるが、英國の經驗派に、獨逸の分析的の丁度折衷

とも見るべきアメリカの哲學に、目を移したのであつた。ドイツの分析的に、飽き足りなさを感じてゐた自分に、アメリカの、言つても、主にジョン・デューウイーの哲學は、誠に心からのよろこびに共鳴を持たないでは居られなかつた。それで、デューウイーのものは見つかり次第（勿論邦譯もの）に讀んだものであつた。唯か朝永云ふ方が「三譯して居られた様に思ふ。買ひ求めて、自分の書棚に飾つてあつたこれ等の書は、あの關東の大震災で跡方もなく焼けてしまつて、私の雛形みたいな書棚も之を機會にすつかり空っぽになつてしまつたわけである。他日、私が親にねだらずに獨りで求められる様になつた時、若き日の記念に思つて、カントのもの三種程、ケール博士のもの、ヴァントの心理學、等の本と一緒にデューウイーの本もと思つて街の本屋をあさつたけれど、デューウイーの邦譯は殆んど見當らず、私の書棚には今デューウイーのものにては、教育哲學概論一冊あるのみである。

私が、ゆかりある第一目目に、研究室で讀み度いと思ふと言つたのは、實にこの「教育哲學概論」（帆足理一郎氏譯

で、私にきつて、學問的な本の中で之程感銘の深かつた本はなかつたと思ふ。いろ／＼な考へ方、就中歴史等の考へ方は誠に面白いと感じられて、幾度も幾度も翫味したのをおぼえてゐる。自分が學問としての教育を言ふ事に、進んで興味を持ち、曲りなりにも理解出来ると思つてゐるのは

(自惚れてゐるのかも知れない)。この書に負ふ所が多いと思つてゐる。倉橋先生が外國からお歸りになつた最初のお講

義を伺つたのは私共のクラスであつたが、先生の最新のあの教育學を、心からの喜びをもつて、待ちこがれて、伺ふ事が出来たのも、本書によつてその素地が作られてあつたからだ。爾來もう十五年餘を経て居る。この間、保姆として又母としての重荷があり、若い日の時の様に讀書三昧の境地に居られない自分は、時折の教育界に心して、曰く最新教育思潮、最新教育學、或は新教育等の語に注意する事を怠らなかつた。そして是等を読み、又は聽講する事によつて、辛うじて、その時々々の教育思想を云ふものにおくれない心して來た。併し、是等を讀んで見て、聽いて見て、その根本思潮の、何れもデウウィーのそれより一步も出て

るない事を確めて、自分はまた、世の最新教育思想なるものが理解出来ない程、老いぼれても居ないのだを意を強うした事であつた。

この度、研究室を言ふ事から、思はずも、自分の過去の讀書生活のいろ／＼が回想せられたわけであつた。

之をものしながら、傍の中央公論を開くを、圖らずも志賀直哉氏の「青臭帖」の

「過去を語る興味も面白くない。氣の利いた人間のする事ではない。聞きづらい事である。これもやめよう。」

を言ふ言葉がづきん胸を打つた。誠にそうである。併し稿を改めるにはもう時日がない。止むを得ず、これにて今月の責を果さしていたゞく。多謝、々々。

この頃、人形芝居の方をすつかりお怠けしてしまつて、誠に意氣地が無いを、自分で自分を責めてゐる。人形座の總帥の倉橋主事からも、時にチクリとやられる事があつていたいと感じる事もある。それか云つて、子供に人形芝居をちつとも見せてやらないのか云ふに、そうではな

い。子供達は人形のあり場所を心得て、年中そこから持ち出しては盛にやつてゐるし、實習科の生徒も始終やつてゐるし、私達も時たま演じてゐる。それなのに自責の念にかられる。云ふのは、自分で考へて見るに、その後ちつとも新しい脚本を考へないからなのである。考へないのではない、二、三脚本化しかけのものもあるのであるが、それが完成するまでになつてゐないのである。

今思ふに、一つの人形芝居を、先づ脚本を拵へて、それから、人形を手作りして、衣裳も道具も作つてそれを上演する事は容易な事ではないと思ふ。それが、熱云はふか、インスピレーション云はふか、そんなものが乗りうつゝて来るに、いさ易々出来てしまふのであるが、今はなかなかそれがやつて來ない。

併しそうなるには、やはり前提として、それだけの事がなければならぬと思ふ。それだけの事云ふのは、やはり、かなり時間的の餘裕があつて、暇にまかせてそんな事をじっくり考へめぐらすのである。そして腹の中で或る構圖が出来上つた頃、うまい工合にインスピレーションが湧

いてくれるに誠な工合がいゝのである。その熱にまかせて一氣呵成に、人形も衣裳も作り上げて上演云ふ所まで運ぶのである。

こんな事を獨りかこつてゐた折も折、過ぐる三月の二十三日、私共の幼稚園の保育修了の日に内山憲堂先生に御願して人形芝居を見せていたゞいた。

一つは指遣ひで、舌切雀の出しもの、流石に感じ入りながら拜見してゐた。も一つの方は手遣ひで、猿蟹合戦の出しもの、これの方は文樂式のま伺つては居たけれど、あの精巧な文樂の人形の仕掛けを、さの程度にお取り入れになつたものか。期待を持つて待つてゐた。いよく實際に拜見して一層驚いた。之は何程のよい事よ。人形の大きさも丁度よいし、人形の動きも誠によい。バックには黒布を張つて、演ずる人もみんな頭から足まで黒布を着るだけの事。舞臺の前の方は、子供の椅子をずらり横に並べてそれに黒布又は類似を掛けるのみ。これを見た殺那、これはいゝ心の中で叫んだ。子供等も、知り切つた、見馴れた猿蟹合戦であるのに、一人残らず吸収されつくしてカタ

リも音させぬ靜けさ。

あの栗ミ蜂ミ白ミが相談して、猿をこらしめに猿の家に
出かけ様にするあたり、子供達は雀躍して喊聲を揚げる有
様に、多血質の私は、すぐ又やつて見たいなま心に思つた。

先生の方も次のお仕事でお急ぎの様だつたし、私共も修

禮（お辭儀）

氏 原 鏡

禮に座禮ミ立禮ミありますが、其作法態度の如何
により其人柄の程がうかがはれる様に思はれ、其禮の
仕方にも人により頭を下げるに低きあり、高きあり、其
流儀は一様ではありませんが、婦人は低流の方が女ら
しく床しく感ぜられ、高流は男子に適する様に思はれ
ますが、皆様は御自分のなさる禮の仕方に付て何かお
考へになつてお出でせうか。幾ら敬意を表する心構へ
の禮も其態度の如何によつて其對者に好感をせられぬ
場合がありはしませんでせうか。殊に初對面の時に此
人は温厚でないらしい、さうも行き過ぎ者らしいなき
ミ見られたりますれば、之れが例へ一時的の推測しして
も不利の立場ではありませんか。

昔からの言にあの人は頭が高いにて其横柄の態度を

了する子供ミ父兄ミをかゝへてあわたゞしかつたので、人
形の仕掛等細々ミ拜見する機會を遂ぞ逸してしまつて、誠
に残念に堪えない次第ではあるが、あゝゆうものを保婦の
手で、屢々見せてやれたら、こちらも満足、子供も仕合せ
だらうミつくぐ思つた。

嫌はれあの人は腰が低いにて親まれるミ、此語の社交
上大に味ふべきことではありませんか。吾人は其接す
る人に對し不快の感を與へぬ様親まれる様心懸けねば
ならぬミ思ひます。尙在職地の風俗習慣の上にも配慮
を要するものミ思はれます。嘗て私の在職地の一般に
腰低く上流の人さへも頭の下げ方低く之れに對し度々
顔負け失敗致しました。爾來之れに注意して座禮には
臂を張らぬ様に兩手を疊の上に揃へ頭部を其上に置き
間のすかない様に對して敬意を表し、立禮には兩手を揃
へて膝頭の下の方に置き敬意を表する禮を致しました。
以上は甚失禮では御座いますが近頃頭の低くない方々
を見まして、幾ら學識を備へられても處世の上にも不利
ならむミ残念の餘り申述べました。

あ る 試

淡路幼稚園 北 條 静 子

「學藝會」、二月、三月、私共小學校に附隨する幼稚園の大きな行事。こんな言葉を幼稚園の生活に全然御持ちにならない方も多數ございませうが――。

「園兒に何か一ツ」。ステージに立つて。父兄の前で――。一體どんな遊戯を、どんな唱歌をしたら――。何さかあの何時もの生活をそのままステージの上に御覽に入れる事はできないものか。毎年考へさせられる事。

* * * * *

今年は幼兒の生活の一端をこんな風に仕組んで舞臺にのせて見ました。御参考までに。

動物園

舞臺裝置

背景。紙テープを鋸止めして動物園の檻をします。その前に箱積木(或は椅子)を高低をつけて並べて置きます。

動物。象(二匹)、ライオン(二匹)、猿(三匹)、兎(二匹)、

九官鳥(二匹)位を顔だけ白ボールに大きく幼兒に彩色させ、その御面を被せて積木の上に座らせて置きます(動物の種類匹數等は自由に)。

別に入口に近く切符賣場。賣子一人。

そのわきに客呼びの子一人。鈴を持たせてこれだけが舞臺裝置であります。尙動物になる子は、いたずらな剽輕者が良いかと思ひます。

* * * * *

まづ軽い序曲を弾く中に靜かに幕。

客呼びの子、鈴を鳴らしながら「アーいらつしやいく」。

第一の見物人 三、四人、切符を買つて登場。

動物園を一わたり見物。動物を思ふ存分たわむれて退場。

同じく客呼びの子の呼び聲。

ライオン

猿

○象さんお鼻をプーラブラ

あつちへブラリこつちへブラリ

○ライオンお口をウオーウオー

おひげの大將のつそり〜

○猿はひつかくキヤツ〜

目玉グル〜齒をむきだして

○ビヨーン〜兎は はね自慢

お耳を振り〜

ビヨーン〜〜ビヨコビヨーン〜

○九官鳥は眞似自慢

おたけさん おたけさん

ライオン

ライオン オクタラ ヴァー ヴァー オヒゲノ 大將 ノソリ ノソリ

猿

サルハ ヒツカク キキキキキキ ヲメダマ クルークル 齒ヲムキ
ダシ テ

兎

ピョンピョン ウサギハ ハネジマ ヌ オミミヲ フリフリ ピョンピョン
ピョンピョコ ピョンピョンピョン

九官鳥

九官鳥 - ハマネツマン オタケ サン オタケ サン

ウサギ

The first system of piano accompaniment for 'ウサギ'. The right hand features a melodic line with eighth-note patterns and rests, while the left hand provides a steady bass line with eighth-note accompaniment.

The second system of piano accompaniment for 'ウサギ'. The right hand continues the melodic line with eighth-note patterns, and the left hand maintains the bass line accompaniment.

The third system of piano accompaniment for 'ウサギ'. The right hand continues the melodic line, and the left hand maintains the bass line accompaniment. A repeat sign (8.) is located at the end of the system.

唄 象

The first system of the vocal line for '象'. The melody is written in a treble clef with a 2/4 time signature, featuring eighth-note patterns and rests. The piano accompaniment is in the bass clef.

象サン オハナヲ プラプラ アツクヘ プラリ コツクヘ プラリ

The second system of piano accompaniment for '象', corresponding to the lyrics above. The right hand features a melodic line with eighth-note patterns, and the left hand provides a bass line accompaniment.

第二の見物人 三、四人登場。同じく動物ミ遊んで退場。
第三、第四 残りの幼児同様にして登場。同じく退場。

方法は唯これだけあります。けれどこの間に幼児の一人一人がどれだけ思ふまゝの、一杯の生活をするかは實に想像以上でございました。

象の鼻をいたずらする。ライオンミは吠えくらべ。仲良しの御猿、兎さんミは御話色々。

殊に人氣者は九宮鳥。突飛な言葉を真似させては大笑ひ。

動物になつた幼児は幼児で、見事な鼻の藝當はやる。ウオー、キャッ、よく啼く事。九宮鳥は澄し返へつて大聲で返事をしては見物人を喜ばせる——。全く動物園そのまゝの風景でございます。

これは練習も何もございませぬ。日頃の遊びが舞臺へ移されただけ。人数も役割も一定したものではありませんから見物人になつたり、動物になつたり皆で楽しく遊べる遊びなのでございます。

私の願ふ所は唯これだけ。この生活振りを見ていただく

だけで充分でありましたがいわゆる「學藝會らしく」する爲にこの遊びを今少し展開致しました。

* * * * *

第一、第二、第三、第四……の見物人の中からライオン、猿、兎、の真似をする三つのグループを定め、見物を終へ、直に退場しないで再び舞臺で各々動物の真似を致します。

◎ライオンの真似するグループ

幼児「僕達ライオンの真似して見よう」

ライオンの曲始まる

幼児の自由表現。

この曲は吠える音。歩く音。檻をひつかく音。ねころぶ音。からできて居りますから適當に何回か弾き、動物の動作のまゝ退場させます。

◎猿の真似するグループ

幼児「さあ僕達猿の真似よ ソーラ」

猿の曲始る。

自由表現。

曲はチヨコく歩く音。キャッくなく音。木に登る音。木から下りる音。から成り同じく適當に弾き退場させます。

兎の眞似するグループ

幼兒「皆で兎になりませう。」

兎の曲。同様自由表現をもつて。

(この幼兒の臺詞は別に作ったものではございませんが幼兒が自身で申しましたので一寸書いて見ました。)

そして最後に(全部見物を終へて退場した時)。客呼びの子の「いらつしやい」を合圖に全見物人一齊に登場動物。見物人。其他。全幼兒揃つて動物の唄を合唱。

靜かに閉幕。

* * * * *

以上、極くにぎやかな、一つの幼兒劇でも申しませう

か……。

御寒い日の室内遊びにでも御役に立てば幸いです。

尙、曲は全部作曲家山本榮先生に御願ひし特に作つていただきましたもので、實に幼兒にしつくりしたものの、御參

考までに御覽に入れます。唄は葛原先生の歌詩を眞似て、象、ライオン、兎、九官鳥と幼兒と共に作りました、おかしなものがございます。

* * * * *

見物人の歩みに伴ひ、美しく動くライト。ライトの光に次々照らし出される滑稽な動物の顔。そして最後に幼兒の合唱と共にぐるぐる廻るライト。ライト。

そんな装置がもし許されたら、これも立派な舞臺劇になりさう。ピアノをたゞきながら幼兒の嬉しさうな顔を見てふみ、こんな事まで考へさせられました。

○ 一 茶

ぶらんこや櫻の花を持ちながら

門の蝶子が這へば飛び這へば飛ぶ

柳からももんぐあゝみ出る子かな

お店あそび

小島 その

オモチャヤ

オカシヤ

オハナヤ

シヨクドウ

ゲタトゾウリヤ

クダモノヤ

ホンヤ

ヨウフクヤ

年長組になつてからの或時こんな字が子供の手でかゝれました。そしてそれ々のお店の下には子供の名前が三人か四人づゝかいてあります。子供達はこのお部屋をあのだパートの様にして自分達がそれ々のお店のうりやさんになる日のごを喜んでか楽しみながら、朝お部屋に入るときすぐにすつかりそのお店の御主人様のやうな氣になつて

品物つくりにかゝります。

このお店は皆子供達が好きなお店の名前を云ひ出して一つのお店を希望者が三人位で受持つことになりました。品物は小さい御主人達に全部まかせて先生はたゞ材料を用意しておくだけにし、あゝはお手傳をする位で、作り方は殆んど子供の考へのまゝを用ひさせてみました。子供ながらもすつかり任かされた様な責任を感じたのでせう。皆一生懸命です。同じお店を受持つた三人か四人はいつも一しよに集つて相談しながら仕事をしてゐます。下駄屋さんは、若し同じ下駄を二つほしいお客様があるかも知れないと云つて可愛いゝ手で同じ形のものに同じ様に緒を上げてゐます。真先に食堂を志願した子供は先づあの食堂のボーイさんの姿を思ひ浮べたのでせう頭につける飾りを作りはじめました。本屋さんは志願してなつてしまひながらも大變細

かい仕事ばかりですぐ先生にたすけを求めて來ます。大てい漫畫の御本ばかりで表紙は一つ一つ御本を出して來てはそれを見ながら漢字でかいてゐます。

材料は子供の手でよくこなせるもので主に畫用紙と白ボール紙ばかりを用ひました。自分の好きに切つたりはつたりして作りますので、さうしても無駄が出ますからはじめの中は前々からためてありました切り屑をあたへて、一通り方法が考へ出されてからきれいな紙をあたへました。お店は一つのお店にテーブル二ツ位づゝの割合にし、たゞ食堂だけは三方を衝立で圍みテーブルの数も多くして白いテーブルかけをかけて氣分を出し、開店の日には子供達の作つた御馳走の他に何を注文したお客様にもあたゝかい紅茶とビスケットを出す様にきめました。子供達は指折りかぞへて毎日このお店びらきの近づくのを待つてゐます。

オモチャヤ

このお店を受持つたのは男兒ばかりでした。先づ勳章と肩章作りがはじまりました。はじめは畫用紙にかいて切りぬいてゐましたが薄いので白ボールにしました。おもちゃ

の勳章を家から持つて來てそれをみてかいてゐる者もゐます。劍もラップも工夫して作りました。劍は薄い畫用紙を三厘位の幅に三重にして糊ではり莢として白ボールを丁度その莢にはまる様に劍の形に切つて鐔をつけます。年少組のおもちや屋の時、先生が手傳つて銀紙をはりつけたり、銀エナメルを塗つたりして立派な劍が出來た時よりももつこもつこ子供達は満足そうに毎日ふえて行くこのおもちやをみてゐます。あこはかばんやハンドバックの様なもの、これは年少組の時おもちや屋ごつこで作つたまゝを思ひ出して作つてゐました。

オカシヤ

これは主にセロファンの袋に入つた様なものばかりが作られそうです。お家から持つて來たチョコレートの包み紙やクレープーパー等を用ひて中に綿や紙屑など入れてきれいなお菓子を作られてゐます。又畫用紙を平たい圓筒形に作つて表面に色紙の屑をこまかくさざむでのりではりつけましたらきれいな洋菓子も出來ました。毎日一つづゝ何か新しい方法を考へて來ては本當に眞劍に幼稚園の一日

をそれに打込んで過してゐます。

オハナヤ

主に鉢植ばかり作られました。切り花は皆クレープペーパーでこれだけは先生の手が大部分入つて作られました。鉢植は白ボール紙に平面に植木鉢とお花を置いてそれを立つ様に工夫しました。籠に入つたお花も畫用紙で簡單に作られました。このお花屋さんのお店だけは大そうきれいに飾られそうです。

シヨクドウ

これはのり巻、お壽司、サンドキッチ等一番數多く作られてゐます。皆色紙と畫用紙ばかりで大そうおいしうに出来ました。中でも黄色い色紙でつゝんだ玉子のおすしや黒い色紙で巻いたおのり巻はおいしうです。器はボール紙で作つてゐましたが、やさか皿を少し用ひましたら一層御馳走が引立ちました。開店當日はこの食堂が一番にぎやかなこゝでせう。

ゲタヤ

白ボール紙を下駄や草履の形に切つてそれに繪をかけた

り切り紙をしたりし、ほそいリボンや、毛糸を集めて種々の色を交ぜ合せて緒にして上げてゐます。裏に畫用紙を齒の形に折つてのりしろを澤山にしてはりつけます可愛いいこまげたが出来ます。この下駄や草履は皆一足つゝ可愛いい、畫用紙の箱に入つてゐます。

クダモノヤ

種々の色のクレープペーパーの中に屑紙を入れてみかん、ばなゝ等出来ました。一方では白ボール紙に平面にかいて切りぬいてゐる者もあります。籠も作られました。

ホンヤ

これは白い模造紙を小さい四角に切つて數枚を重ね表紙ミ裏になる一枚は畫用紙にして絲でミぢました。はじめは中まで一枚つゝ面白い繪をかけたりましたが表紙だけかけた御本も出来て来ました。

ヨウフクヤ

主に色紙と畫用紙ばかりで、前に作つた着せかへの洋服を思ひ出して作つてゐます。

生活と職業

菅原 教造

衣食住と言ふ三字の成句は、一般に、着る衣服、食べる食物、住む住居と言ふ——生活必需品、生活資料、又は經濟的財貨と解されて居ります。衣食住は物件財です。

この物件財と關係を持つ人類の文化財又は社會生活相には、二つの方面が考へられます。第一は衣食住と言ふ物件財を統一し運用する風俗的文化又は風俗的生活相です。第二は衣食住と言ふ經濟的財貨を獲得し消費する經濟的文化又は經濟的生活相です。文化や社會生活相の代りに、行動の規範と言つても同じ事です。

先づ第一の場合を述べます。風俗は國民の生活様式——たゞへば、如何に着、如何に食べ、如何に住むべきか——を命令する掟の文化です。さう言ふ國民の行動を支配する習慣的の手法——たゞへば、國民としての着方・食方・住み方——も、やはり衣食住と呼ばれます。それですから、衣食住と言ふ概念には、物件財としての衣服・食物・住居も、文化財としての着方・食方・住み方も、二つの方面が考へられるわけです。

しかし、食物なしに食べ方が成立しないやうに、食べ方なしに食物は用をしません。文化財と物件財と言ふ二つのものが一如なる所に、即ち生活様式が生活資料を運用し、物件財が文化財によつて支配される所に、衣食住と言ふ人間生活の問題が具體化され、活きた世の中の動きが見られます。このやうに、衣食住は、文化財物件財合一の生活相であり、風

俗的文化の問題であるを考へられます。

次に第二の場合を述べます。こゝでは、衣食住と言ふ經濟的財貨又は生活必需品を、それを欲望充足の對象とする消費者との間の關係、即ち經濟的行動が問題となります。この行動は、財貨の獲得と消費と言ふ事であり、人間の生存又は生計の問題を意味します。極端に言つて見れば、この經濟的行動は着方・食べ方・住み方と言ふやうな風俗的文化の命する習慣律的の儀式や作法以前の……言つていゝかも知れない……つまり着る事・食へる事・住む事と言ふ止むに止まらない本能的な生活の問題を意味します。それですから、生計の問題を推し詰めて考へれば、衣食住と言ふ生活資料を對象とする本能生活の問題となり、個人的消費の問題となつてしまひます。生計を立てると言ふ事は、食物即ち生活の糧を得ると言ふ事であり、生きて行くと言ふ事は食べて行くと言ふ事を意味します。何處の國語でも、衣食住と言ふ物件財の中の食を得る事が生計手段を代表し、飯又はパンが直下に職業を意味します。これは、社會機構に立脚する經濟的生活や社會的分業の問題を、強いて生物生活本位に、又は個人經濟本位に解釋しようとする極端な考へ方なのですけれども、衣食住と職業の關係を、最も端的な形式で表現したものと認めていゝでせう。

かう言ふ衣食住の問題から出立して、これを手掛りにして、次に、職業の問題を考へて見ませう。

二

職業と言ふ概念には、三つの考へ方が含まれてゐます。第一は、二世の中にはさまざまの職業があると言ふ意味の職業と言ふ事です。簡単に言へば、そこにある職業です。この考へ方によれば、職業と言ふ概念は、生存のためのあらゆる生計手段を包括する事になります。つまり、現實の社會生活と言ふ客觀的狀勢が作り出した最廣義の職業分化の全範圍であり、さう言ふ成立したあらゆる社會的分業に應ずるあらゆる職業と言ふ意味です。こゝで言ふ社會的分業は、近世の經

濟的又は技術的分業に限らず、これをも含んだもつゝ広い意味のものです。

それですから發達的に考へるに、この最廣義の社會的分業に應ずる職業の分化は、非常に多方面なものです。たゞへば原始時代の呪醫・豫言者・卜者のやうな神聖職業も、同じく原始時代の男女兩性の分業に基く主婦及び母としての婦人の職業のやうな自然的職業も、又封建時代の世襲の階級的分業に基く國王・僧侶・領主・官吏・軍人・法律家・學者・醫師・地主・農民・手工業者・市民と言ふやうな階級的職業も、最後に、近代産業の生んだ工場労働や、封建時代以來の傳統のある手工業のやうな經濟的職業も、皆この意味の職業に含まれます。つまり、人間の分業的社會は職業から成り立つてゐる言つていゝのであつて、たゞへば、社會的分業を大きな鎖とすれば、その一つ一つの環が、この意味の職業に當ります。

又この意味の職業は、考へ得る限りのあらゆる生計手段の全範圍を含みます。それ故、貴賤貧富の職業はもつゝより、世の中にたつた一人しか就職者のない職業も、現在では就職者のない職業も、無業と言ふ職業も、有害な職業もあり得るのです。たゞへば、國王も乞食も、舊ロシアのザーも、舊ドイツのカイゼルも、地代・利子・年金・恩給で生活する人も、有閑階級も、失業者も、生徒や寄食者や扶養者も、法律によつて禁止されてゐるギャングも囚人も、皆この意味の職業者——何かの方法手段でパンを得る者——に數へられます。隨つて、この意味の職業の領域は、この國に於ても、職業統計の示す職業の範圍よりも廣いのです。所謂商賣往來にない職業が、實際にはあるのです。

三

第二は、「私の職業は車掌である」言ふ意味の職業で、各國の職業統計に現はれる經濟的職業オキユベーションです。又官吏・教師その他の自由職業フツウエーション(財貨の生産・販賣や交通に直接關係のない職業)は、右に述べたやうに、階級的職業の歴史を持つてゐますけれども、近世から經濟的職業に進出しましたから、現在ではやはりこの中に含まれます。

經濟的職業が成立する條件としては、第一に技術的に、ある個人が市價を有する特殊の肉體的・精神的勤勞即ち業務を營む事、第二に經濟的に、その個人が生計を保證する收入を得るために、繼續的に執務する事、第三に社會的に、業務によつて個人の地位——たゞへばドイツでは、職業上の地位として、業主・職員・勞務者の三、イギリスでは、産業上の地位として、雇主・單獨・使用人の三——が定められ、その個人は社會に對して道徳的の責任を有する事、等が考へられます。

第 一 表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-----------|-------|------------------------|---|-----------|-----------|---------------|--------------|----------------|-----------------|----------------|----------|--------------|--------------|--------|------------|------------|--------|------------|-------------|-------|-------|-------|------|----------|-------|------|------|------|
| X、無業 | 42、無業 | 41、其の他の産業 | 40、家事 | VII、公務自由業 | VI、交通業 | V、商業 | IV、工業 | III、鑛業 | II、水産業 | I、農業 | 大分類 | 産業分類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 中分類 | 業分類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 43、無業 | 44、其の他の産業 | 40、家事 | 39、其の他の著書、藝術、遊藝、其他の自由業 | 38、37、36、35、34、33、32、31、30、29、28、27、26、25、24、23、22、21、20、19、18、17、16、15、14、13、12、11、10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、 | 31、其他の水道業 | 24、其他の工業業 | 23、瓦、電、氣、の工業業 | 22、土木建築に關する業 | 21、飲食、飲料、食品製造業 | 20、木竹草蓆類に關する製造業 | 19、皮革、骨、羽毛品製造業 | 18、紙、印刷業 | 17、被服、織物、縫製業 | 16、丁、工、巧、工、業 | 15、造船業 | 14、機械器具製造業 | 13、運輸用具製造業 | 12、造船業 | 11、金、鐵、工、業 | 10、窯業、土石加工業 | 9、採石業 | 8、採石業 | 7、採石業 | 6、漁業 | 5、其の他の農業 | 4、畜産業 | 3、農業 | 2、農業 | 1、農業 |

仕事の方を本位としたものです。この立場から職業を産業に置き換へて分類したものが、所謂「産業分類」です。つまり職業者の産業的分類と言ふ事です。次に、内閣統計局制定の産業分類中の、大分類十種、中分類四十二種を掲げて見ませう（第一表）。小分類は二百八十種にのぼり、餘り煩雜になりますから省略します。この第一表、二次の第二表の大分類の欄の I, II, III : : 及び中分類の欄の 1, 2, 3 : : は、後に出て来る統計表に引用される番號です。

職業統計の産業分類に現れた職業は、収入のための業務であり、所謂外的職業です。随つてこの第二の意味の職業では、それに従事してゐる人と言ふ事が考へられてるません。このやうに、職業と人との内面的關係が問題にされてるませんから、「彼は十遍もその職業を替へた」と言ふやうに、その交換が氣樂に考へられます。極端に言つて見れば、収益のためならどんな職業でもよいわけであり、その人にまつてある一定の職業でなければならぬと言ふ理由はないのです。

四

この第二の意味の職業に對して、第三は、「彼はこの職業に適してゐる」と言ふ意味の職業です。これは、社會を本位としたものでなく、個人を本位としたものであり、つまり、個人が自己に適した職業を持つ事です。随つてこの場合には、人との職業との關係即ち人の職業への入り込み方が考へられて來ます。これは、單なる収入や事務でなく、人を中心とした内的職業であり、所謂天職^{ヴァークション}です。天職とは呼びかけられた職業、又は御召しによつて選まれた職業であり、言ひ換へれば、その人の自然の素質、天賦の傾向に基いて選まれた職業です。こゝに職業の使命の自覺に基く榮譽と責任があり、満足と熱情があります。随つて、職業の遂行は國家及び社會に對するその人の義務であり、人はその全人格を捧げて永續的にこの選まれた職業に献身奉仕すべきであり、又この意味の職業活動は、仕事に對してもその人に對しても、最上の効果が達せられるものと考へられます。たゞへば、主婦や母のやうな原始時代からの自然的職業や、僧侶・官吏・軍人・法律家・教

師・醫師・手工業者のやうな封建時代からの階級的職業は、この第三の意味の職業であつて、この傾向は、現在の經濟的職業時代に於ても、決して失はれてゐません。

封建時代に於ては、階級は社會組織の大きい單位であり、法律秩序の代表者でした。隨つて、それ／＼の階級の成員は鞏固な組合又は座を作り、その屬する階級的職業の榮譽と責任とを自覺してゐました。このやうに、封建時代の階級制度は、成員の行動に對して、嚴密な規定を課してゐましたから、職業生活のみならず、道德的・藝術的・家族的の生活の上にも強い影響を與へました。この時代の人々の職業的良心・職業的修業は、職業生活の社會的類型と見るべき職業氣質を構成しましたし、又職業的第六感はなはだは名人氣質めいじんしつと言ふ言葉で、職業に對する感謝の意味は職業冥利しつはいみやうりと言ふ言葉で表現されました。この神聖な階級的職業は、家族の職業として世襲的に繼承され、それが家の面目であり身の譽れでもありました。それですから、實に職業上の素質が恵まれなかつた場合には、才能のある者が養子として迎へられた事が珍らしくありませんでした。

現在に於ても、經濟的職業意識は、大工場おほいが資本主義的の商業や交通に特有のものと言つていゝ位で、官吏・教師その他の自由職業者や手工業者は、やはり傳統的な職業意識を以つて生活してゐます。現代の教員も、官僚事務を執る官吏もやはり道德的な階級的職業意識を以つて勤務してゐますし、大工場で勞働する職工も、昔のやうな名人氣質めいじんしつの手工業者を以つて任じてゐる者が少なくないのです。近代的生产方法では、大工業は部分的な生産工程に細分されます。これを統合するのが産業組織です、しかしその一々の部分的工程を受け持つ熟練工は、やはり手工業者のやうな職業意識を以つて働いてゐるのです。

この第三の意味の、働く人の從業態度、個人の氣質や技術に基く仕事氣質かたぎと言ふやうな方面から業務を分類したものは

が、所謂「職業分類」です。これは産業部門との關係なく、たゞ業務そのものゝ部門分けをしたものなのです。前に掲げた「産業分類」の場合と同様に、次に、内閣統計局制定の分類表の中、大分類十種之中分類四十一種を掲げて見ませう(第一表)。小分類は三百七十六種と言ふ多數になりますから省略します。

第二表

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------|--------|--------------------|------|---------------------------------|------|---|-------|---|---------|---|---------|----------|----------|-----------|
| Ⅰ、無業者 | 40、41、其他の無業者 | Ⅱ、農業者 | 1、2、3、4、農畜林業に従事する者 | Ⅲ、工業 | 5、漁業に従事する者 | Ⅳ、商業 | 6、7、8、9、採炭、石油採取、土石採取、採炭工業に従事する者 | Ⅴ、交通業 | 10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、窯業、土石加工、金屬工業、機械器具製造、船運、精巧工業、化學製品製造、紡織工業、被服、紙工業、印刷工業、皮革、骨、羽毛製品製造、木竹草蓆に關する製造に従事する者 | Ⅵ、公務自由業 | 25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、商業、金融、接客業、運輸、通信、官吏、海軍、陸軍、警察、宗教、教育、宗敎、醫師、書記、著述、家、藝術家、遊戲、其他の自由業 | Ⅶ、家事使用人 | 38、家事使用人 | Ⅷ、其他の有業者 | 39、其他の有業者 |
| Ⅰ、農業者 | 1、2、3、4、農畜林業に従事する者 | Ⅱ、水産業者 | 5、漁業に従事する者 | Ⅲ、工業 | 6、7、8、9、採炭、石油採取、土石採取、採炭工業に従事する者 | Ⅳ、商業 | 10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、窯業、土石加工、金屬工業、機械器具製造、船運、精巧工業、化學製品製造、紡織工業、被服、紙工業、印刷工業、皮革、骨、羽毛製品製造、木竹草蓆に關する製造に従事する者 | Ⅴ、交通業 | 25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、商業、金融、接客業、運輸、通信、官吏、海軍、陸軍、警察、宗教、教育、宗敎、醫師、書記、著述、家、藝術家、遊戲、其他の自由業 | Ⅵ、公務自由業 | 30、31、32、33、34、35、36、37、38、官吏、海軍、陸軍、警察、宗教、教育、宗敎、醫師、書記、著述、家、藝術家、遊戲、其他の自由業 | Ⅶ、家事使用人 | 38、家事使用人 | Ⅷ、其他の有業者 | 39、其他の有業者 |

右の産業分類及び職業分類の小分類の項目を略しましたが、それを一覽表にしたものは、昭和七年内閣統計局發行の

「抽出調査に依る昭和五年國勢調査結果の概観」に出て居ります。尙もつゞ精しくこの小分類の内容について知りたいと思ふならば、昭和六年内閣統計局發行の『國勢調査の結果表章に用ふべき産業分類及職業分類』を参照の事。

五

職業の分類の問題については、専門の統計學者の間に、客觀的・社會的分類によるべきか、主觀的・個人的分類によるべきか、についての議論があります。例を工業にまつて言つて見れば、勞働行程を中心として分類すべきか、或は人間の創作活動を中心として分類すべきかと言ふ事です。

第一の場合は、近代産業の經營を基礎として分類するので、この立場の分類項目は、原料を生產品に變化する工程から導かれます。先づ原料を基礎にすれば、金屬工業・皮革工業等に分類され、次に生產品の性質を基礎にすれば、飲食料工業、被服工業等に分類され、最後に工程を基礎にすれば、化學工業・紡織工業等に分類されます。いづれにしても經營の組織を本位とした分類です。「産業分類」は、この社會本位の客觀的の立場に屬するもので、産業組織を中心とし、經營體の事業の種類を基礎にした所謂縱斷的分類です。この分類法によつて、各産業に分布する有業者の割合、各産業に屬する有業者の人口の範圍なきが明らかにされます。この方法によれば、從來の傳統的の職業も、つまり同一の職業も、それ／＼の産業部門に分割され、随つて従業者の保健状態や生計の保證も、その屬する産業部門の種類や盛衰と共に變動します。

第二の場合は、封建時代からの階級的職業の傳統を基礎にして分類するので、この立場の分類項目は、たゞへば、番頭・手代・小僧と言ふやうな商業制度、大工・鍛冶と言ふやうな手工業制度を本位とする事になります。「職業分類」はこの個人本位の主觀的な立場に屬するもので、個人的作業の特質を中心とし、その個人的作業が同種類である限り、あらゆる産業部門に屬するその作業を一集團として包括する所謂橫斷的分類です。この分類法によれば、國民の職業分化、有業者の職

業的地位(業主・職員・勞務者)が明らかにされ、同時にその健康状態や教育程度などが反映されます。

産業分類は、産業と言ふ事を基礎にして、各産業の部門を立て、そこへ従業者をはめこむ分類の式です。職業分類は、働く人を基礎にして、その業務の部門を立て、従業者の職業生活を知らせる分類の式です。

後に出て来る第八表と第九表を比較し、又第十表と第十一表を比較して見るに、項目の名が同じで従業者の数が違つてゐるでせう。これは右に述べたやうに、事を中心とする場合と、人を中心とする場合とで、数が違ふからです。

右の二種の分類は、國勢調査に用ゐられる内閣統計局制定の標準的のものです。しかしこの外のための分類については、昭和五年十二月二十七日内閣訓令第三號で、「各官廳に於て調製する統計中、産業及び職業によつて類別するものは、本分類に據るべし。但し特に必要ある時は、本分類に據るものと比較對照を失はざる程度に、各項目を輯約し又は細分する事を得し規定してあるやうに、實用上の適當な變形が容認されて居ります。次に、内務省中央職業紹介事務局がこの立場から制定した實用分類を、昭和九年發行の『職業紹介關係法規』によつて掲げて見ませう(第三表)。これは職業紹介事務局で、求人即ち所要申込の職業、求職者即ち希望職業、就職者即ち就職決定の職業などを定める時に用ゐられる分類で、職業紹介の目的から、産業分類と職業分類を折衷して作つたものです。『職業紹介月報』に記載される分類もこれに據つて居り、又小分類の1, 2, 3...等の番號は、職業紹介所の傳票に使用されてゐるものです。

第三表

| 大分類 | 小分類 | 細分類 |
|-----|-----|--|
| 1、製 | 絲 | 生絲、人造絹絲、擦絲 |
| 2、紡 | 織 | 紡績、編物、組物、絹綿織物、毛織物、莫大小、麻絲維、眞綿、ペニー、綿等の製造 |

| II、土木建築 | I、工業及び鑛業 |
|--|---|
| 18、大工 19、左官 20、石工 21、土方 22、其他雇 | 3、染色 4、裝身具 5、機械器具 6、船舶車輛 7、電氣瓦斯 8、金屬工業 9、製藥 10、磷寸 11、肥料 12、製紙 13、製版印刷 14、食料品 15、嗜好品 16、採鑛冶金 17、其他 |
| <p>大工、建具、製材、木挽等(木型工、木工等を含みます)</p> <p>左官、煉瓦積、セメント塗、ペンキ塗、泥工等</p> <p>石工</p> <p>土方、土木建築手傳、雜役、鷹職</p> <p>屋根屋、疊職、土木測量手、建築手、土木建築請負業、土木技術師等</p> | <p>染料、漂白、洗濯、浸拔、整理、捺染、湯熨斗、練和洋服裁縫、帽子製造、シャツ、手袋、足袋類、履物(靴を含む)、傘類等の製造</p> <p>鬚類、花簪、筭、櫛、櫛、其他頭髮裝飾品及び其他の裝身具(身の廻り品)の製造</p> <p>度量衡其他計測器、化學的機械器具、時計、電氣機械器具、原動機(汽缸、電動機、瓦斯發生機等)、銃砲、彈丸、水雷、紡織機械、農具、土工具、金屬工業、川木工用機械、航空機械、其他機械器具の製造及び修繕</p> <p>大小船舶、船具及び諸車輛の製造及び修繕</p> <p>電氣瓦斯の發生供給及び其裝置業</p> <p>精鍊業、金屬鑄延、釘、鋸、針の鐵業、鋼索鐵鎖製造、鍛冶業、鑄物業、銅器、眞鍮器、青銅器、貴金屬品等の製造</p> <p>工業用藥品、醫療藥品、賣藥、染料、石鹼、化粧品、火藥、爆發物等の製造</p> <p>燐寸、附木、燐寸軸木等の製造</p> <p>人造肥料</p> <p>製紙、紙工品製造、表具師</p> <p>製版、印刷(寫真版印刷を含む)、製本</p> <p>精製、製粉、砂糖、麵類、豆腐、味噌、醬油等の製造</p> <p>煙草、茶、菓子、酒類、清涼飲料等の製造</p> <p>金屬及び非金屬鑛業、土石採取業</p> <p>以上の各分類に入らざる工業及び鑛業——即ち築業中のセメント、石灰類、瓦、土管、煉瓦、陶磁器、珪瑯品、硝子製品等の製造——化學工業中の油脂、臘、ゴム、セルロイド、防水品、漆、塗料等の製造、化學分析検査に關する業、フィルム、膠等の製造——皮革、骨、角、甲、羽毛品製造(裝身具に屬せざるもの)——木竹藁草細工品製造中の漆器製造、指物、曲物、削物、木地細工、麥稈、經木、棕櫚、疊表、蓆、瓢箪、糸瓜細工等の製造</p> |

| Ⅲ、商業 | | Ⅳ、農林業 | | Ⅴ、水産業 | | Ⅶ、通信運輸 | |
|------|---|-------|--|-------|-----------------------------|--------|--|
| 23 | 店員 | 29 | 農作園藝 | 33 | 漁撈養殖 | 36 | 船員 |
| 24 | 小商店員 | 30 | 養蠶 | 34 | 製鹽 | 37 | 鐵道從事員 |
| 25 | 商店雜役 | 31 | 林業 | 35 | 其他 | 38 | 電鐵從事員 |
| 26 | 飲食店雇人 | 32 | 其他 | | | 39 | 自動車從事員 |
| 27 | 行商 | | | | | 40 | 通信從事員 |
| 28 | 其他 | | | | | 41 | 運送業 |
| | 店員、番頭等 少年店員、小僧、徒弟(商業)等 商店雜用人、荷造、御用聞き 料理人、給仕人、出前持、其他旅館・料理屋・飲食店使用人 賣子、行商等 其他商業及び其他の使用人 | | 農作、園藝、造園、牧畜、搾乳、養禽 養蠶、蠶種の製造 森林業、林産物 其他の農林業 | | 漁撈、採藻、魚介、養殖 製鹽 其他の水産業 | | 自動車從事員 電鐵從事員、電氣軌道運輸の現業に從事する者の全部 自動車從事員 通信事務員、郵便電信集配人、電話交換手、其他の通信從事員 仲仕、沖仲仕、運搬夫、運送業店員等 挽子、車力、馬力、人力車夫、馭者等(抱車夫馬丁等は戸内使用人の其他に屬す) 其他の通信運輸業 |
| 44 | 婢 | | | | | 45 | 乳母 |
| | 下男、上級及び下級の女中等 乳母、兒守等 | | | | | | |

| VII、戸内使用人 | IV、雜業 |
|---|---|
| 46、書生給仕 47、番人小使 48、其他 | 49、官公吏 50、教員 51、事務員 52、看護員 53、醫師 54、藥局員 55、外交集金人 56、配達人 57、理髮人 58、娛樂場雇人 59、其他 |
| 書生、給仕 夜警、番人、門衛、小使、使丁、下足番、留守番等 家政婦、炊事夫、抱車夫、抱馬丁 | 官公署吏員（一般事務を取扱ふ官公署の雇員以上の者） 教員、保母、家庭教師 銀行會社事務員等 産婆、看護婦、看護人、按摩 醫師、代診 藥局員 外交員、集金人、外動員、勸誘員 辨當屋配達、新聞雜誌配達、牛乳配達等 理髮人、理容人 遊戯場・娛樂場雇人 記者、通譯、校正、筆耕、タイピスト製圖、寫真師、裝飾屋、三助、清潔雇人、廣告屋、案内人、技術師、差配人、撒水夫、潜水夫、葬儀人夫、代書、易者、宗教に關する業、教育に關する業、獸醫、蹄鐵工、法務に關する業、著述家、藝術家、禮式教師、武藝諸道師範等 |

六

これから、右に述べた産業分類と職業分類の二方面に互つて、國民の職業活動を、先づ男性と女性とを比較しつゝ、統計的に調査して見ませう。統計は正確を期するために、昭和五年（一九三〇年）十月一日に施行された國勢調査を整理した内閣統計局の報告、『抽出調査に依る昭和五年國勢調査結果の概観』昭和七年發行から引用します。統計の範圍は内地を主としたもので、臺灣・朝鮮及び樺太は含まれて居りません。統計の數は抽出調査によつたものです。

第四表 昭和5 (1930)

| 配偶関係人口別 | | | | | | | |
|---------|------------|------------|------------|--------|-------|-------|-------|
| 配偶関係 | 總數 | 男 | 女 | 女百につき男 | 各人口千中 | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 |
| 總數 | 64,067,050 | 32,294,890 | 31,772,160 | 101.65 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 未婚 | 33,999,730 | 18,365,720 | 15,634,010 | 117.47 | 531 | 569 | 492 |
| 有配偶 | 25,210,480 | 12,573,380 | 12,637,100 | 99.50 | 394 | 389 | 398 |
| 死別 | 4,251,150 | 1,083,110 | 3,168,040 | 34.19 | 66 | 34 | 100 |
| 離別 | 605,690 | 272,680 | 333,010 | 81.88 | 9 | 8 | 10 |

第五表 昭和5 (1930)

| 有業者及び無業者 | | | | | | | |
|----------|------------|------------|------------|--------|-------|-------|-------|
| 種別 | 總數 | 男 | 女 | 女百につき男 | 各人口千中 | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 |
| 總數 | 64,067,050 | 32,294,890 | 31,772,160 | 101.65 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 有業者 | 29,220,550 | 19,089,520 | 10,131,030 | 188.43 | 456 | 591 | 319 |
| 無業者 | 34,846,500 | 13,205,370 | 21,641,130 | 61.02 | 544 | 409 | 681 |

第六表 昭和5 (1930)

| 配偶関係別有業者 | | | | | | | |
|----------|------------|------------|------------|--------|-------|-------|-------|
| 配偶関係 | 總數 | 男 | 女 | 女百につき男 | 各人口千中 | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 |
| 總數 | 29,220,550 | 19,089,520 | 10,131,031 | 188.43 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 未婚 | 9,056,100 | 6,080,100 | 2,976,000 | 204.30 | 310 | 319 | 294 |
| 有配偶 | 17,871,180 | 11,980,170 | 5,891,010 | 203.36 | 612 | 628 | 581 |
| 死別 | 1,850,920 | 786,900 | 1,064,020 | 73.96 | 63 | 41 | 105 |
| 離別 | 442,350 | 242,350 | 200,000 | 121.18 | 15 | 13 | 20 |

第四表によつて、全人口・男女人口の比・結婚關係を知る事が出来ます。
 第五表によつて、全人口の中の、男女の有業者・無業者が明らかにされます。
 第六表によつて、男女の有業者の結婚關係を知る事が出来ます。
 第七表によつて、男女の有業者の年齢別が示されます。
 第八表は、第一産業分類の、大分類欄に應ずる男女の有業者を、總數の多いものから少ないもの

第七表 昭和5 (1930)

| 年 齡 別 有 業 者 | | | | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|
| 年 齡 | 總 數 | 男 | 女 | 女百に つき男 | 各人口千中 | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 |
| 總 數 | 29,220,550 | 19,089,520 | 10,131,030 | 188.43 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 0—14 | 1,028,010 | 493,010 | 535,000 | 92.15 | 35 | 26 | 53 |
| 15—19 | 4,405,220 | 2,611,220 | 1,794,000 | 145.55 | 151 | 137 | 177 |
| 20—24 | 3,984,420 | 2,565,420 | 1,419,000 | 180.79 | 136 | 134 | 140 |
| 25—29 | 3,463,780 | 2,429,760 | 1,034,020 | 234.98 | 119 | 127 | 102 |
| 30—34 | 3,053,510 | 2,104,500 | 949,010 | 221.76 | 104 | 110 | 94 |
| 35—39 | 2,693,360 | 1,784,360 | 909,000 | 196.30 | 92 | 93 | 90 |
| 40—44 | 2,561,960 | 1,697,960 | 864,000 | 196.52 | 88 | 89 | 85 |
| 45—49 | 2,323,340 | 1,522,340 | 801,000 | 190.05 | 80 | 80 | 79 |
| 50—54 | 2,073,970 | 1,382,970 | 691,000 | 200.14 | 71 | 72 | 68 |
| 55—59 | 1,537,300 | 1,021,300 | 516,000 | 197.93 | 53 | 54 | 51 |
| 60—64 | 980,480 | 676,480 | 304,000 | 222.53 | 34 | 35 | 30 |
| 65—69 | 606,160 | 429,160 | 177,000 | 242.46 | 21 | 22 | 17 |
| 70— | 509,040 | 371,040 | 138,000 | 268.87 | 17 | 19 | 14 |

第八表 昭和5 (1930)

| 産 業 別 有 業 者 (大分類) | | | | | | | |
|-------------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|
| 産 業 | 總 數 | 男 | 女 | 女百に つき男 | 各人口千中 | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 |
| 總 數 | 29,220,550 | 19,089,520 | 10,131,030 | 188.43 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| I. 農 業 | 14,104,160 | 7,740,160 | 6,364,000 | 121.62 | 483 | 405 | 628 |
| IV. 工 業 | 5,414,410 | 4,392,410 | 1,022,000 | 429.79 | 185 | 230 | 101 |
| V. 商 業 | 4,959,140 | 3,493,140 | 1,466,000 | 238.28 | 170 | 183 | 145 |
| VII. 公務自由業 | 2,051,110 | 1,637,090 | 414,000 | 395.41 | 70 | 86 | 41 |
| VI. 交 通 業 | 932,080 | 893,080 | 39,000 | 2,289.95 | 32 | 47 | 4 |
| VIII. 家 事 | 815,540 | 93,530 | 722,010 | 12.95 | 28 | 5 | 71 |
| II. 水 産 業 | 585,040 | 537,040 | 48,000 | 1,118.83 | 20 | 28 | 5 |
| III. 鑛 業 | 303,070 | 259,070 | 44,000 | 588.80 | 10 | 14 | 4 |
| IX. 其他の産業 | 56,000 | 44,000 | 12,000 | 366.67 | 2 | 2 | 1 |

第九表 昭和5 (1930)

| 職 業 別 有 業 者 (大分類) | | | | | | | |
|-------------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|
| 職 業 | 總 數 | 男 | 女 | 女百に つき男 | 各人口千中 | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 |
| 總 數 | 29,220,550 | 19,089,520 | 10,131,030 | 188.43 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| I. 農 業 | 14,156,030 | 7,791,030 | 6,365,000 | 122.40 | 484 | 408 | 628 |
| IV. 工 業 | 5,290,560 | 4,286,560 | 1,004,000 | 426.95 | 181 | 225 | 99 |
| V. 商 業 | 4,463,110 | 3,026,110 | 1,437,000 | 210.59 | 153 | 159 | 142 |
| VII. 公務自由業 | 2,031,070 | 1,685,060 | 346,010 | 487.00 | 70 | 88 | 34 |
| VI. 交 通 業 | 1,108,560 | 1,027,560 | 81,000 | 1,268.59 | 38 | 54 | 8 |
| VIII. 家事使用人 | 806,000 | 87,000 | 719,000 | 12.10 | 28 | 5 | 71 |
| II. 水 産 業 | 568,040 | 521,040 | 47,000 | 1,108.60 | 19 | 27 | 5 |
| IX. 其他の有業者 | 561,000 | 466,980 | 94,020 | 496.68 | 19 | 24 | 9 |
| III. 鑛 業 | 236,180 | 198,180 | 38,000 | 521.53 | 8 | 10 | 4 |

の順に示したものです。

第九表は、第二表職業分類の、大分類欄に應ずる男女の有業者を、總数の多いものから少ないもの順に示したものです。

第十表は、第一表産業分類の、中分類欄に應ずる男女の有業者を、總数の多いものから少ないもの順に示したものです。産業欄の数字は、第一表産業分類の中分類の番號です。

第十表 昭和5 (1930)

| 産 業 | 總 数 | 産 業 別 有 業 者 (中 分 類) | | 各 人 口 千 中 | | |
|----------------------------|------------|---------------------|------------|-----------|-------|-------|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 總 | 29,220,550 | 19,086,520 | 10,131,030 | 1,000 | 1,000 | |
| 1. 農 耕 | 13,525,130 | 7,432,130 | 6,093,000 | 463 | 389 | |
| 25. 物 品 販 賣 業 | 3,339,090 | 2,584,090 | 755,000 | 114 | 135 | |
| 30. 接 客 業 | 1,125,030 | 475,030 | 650,000 | 39 | 25 | |
| 15. 紡 織 工 業 | 1,114,630 | 562,630 | 552,000 | 38 | 30 | |
| 33. 公 務 | 1,043,050 | 923,030 | 120,020 | 36 | 48 | |
| 32. 交 通 業 | 932,080 | 893,080 | 39,000 | 32 | 47 | |
| 22. 土 木 建 築 に 關 する 業 | 875,880 | 869,880 | 6,000 | 30 | 46 | |
| 40. 家 事 | 815,540 | 93,530 | 722,010 | 28 | 5 | |
| 19. 木 竹 草 蓆 類 に 關 する 製 造 業 | 684,770 | 618,770 | 66,000 | 23 | 32 | |
| 6. 酒 業 | 585,040 | 537,040 | 48,000 | 20 | 28 | |
| 21. 飲 食 料 品 製 造 業 | 516,050 | 424,050 | 92,000 | 18 | 22 | |
| 16. 被 服 身 裝 品 製 造 業 | 419,370 | 267,370 | 152,000 | 14 | 14 | |
| | | | 女百につき男 | 總 数 | 男 | 女 |
| | | | 188.43 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | | | 121.98 | 463 | 389 | 601 |
| | | | 324.26 | 114 | 135 | 75 |
| | | | 73.08 | 39 | 25 | 64 |
| | | | 101.93 | 38 | 30 | 54 |
| | | | 769.06 | 36 | 48 | 12 |
| | | | 2,289.95 | 32 | 47 | 4 |
| | | | 14,498.00 | 30 | 46 | 1 |
| | | | 12.95 | 28 | 5 | 71 |
| | | | 937.53 | 23 | 32 | 7 |
| | | | 1,118.83 | 20 | 28 | 5 |
| | | | 460.92 | 18 | 22 | 9 |
| | | | 175.90 | 14 | 14 | 15 |

| | | | | | | | |
|----------------|---------|---------|---------|----------|----|----|----|
| 35. 教育 | 393,030 | 271,030 | 122,000 | 222.16 | 14 | 14 | 12 |
| 10. 金属工業 | 392,810 | 376,810 | 16,000 | 2,355.06 | 13 | 20 | 2 |
| 3. 織業 | 298,000 | 73,000 | 225,000 | 32.44 | 10 | 4 | 22 |
| 17. 紙工業印刷業 | 274,720 | 240,720 | 34,000 | 708.00 | 9 | 13 | 3 |
| 7. 探鉱業 | 271,070 | 231,070 | 40,000 | 577.68 | 9 | 12 | 4 |
| 9. 窯業土石加工業 | 256,040 | 220,040 | 36,000 | 611.22 | 9 | 12 | 4 |
| 37. 醫藥 | 252,000 | 146,000 | 106,000 | 137.74 | 9 | 8 | 10 |
| 11. 機械器具製造装置業 | 229,050 | 217,050 | 12,000 | 1,808.75 | 8 | 11 | 1 |
| 27. 金融保険業 | 200,010 | 182,010 | 18,000 | 1,011.17 | 7 | 10 | 2 |
| 14. 化学工業 | 186,020 | 155,020 | 31,000 | 500.06 | 6 | 8 | 3 |
| 36. 宗教 | 185,020 | 145,020 | 40,000 | 362.55 | 6 | 8 | 4 |
| 5. 林業 | 180,000 | 149,000 | 31,000 | 480.65 | 6 | 8 | 3 |
| 12. 造船業運搬用具製造業 | 167,030 | 163,030 | 4,000 | 4,075.75 | 6 | 9 | 0 |
| 26. 媒介業遊藝業 | 166,010 | 151,010 | 15,000 | 1,006.73 | 6 | 8 | 1 |
| 23. 瓦斯電気水道業 | 135,020 | 133,020 | 2,000 | 6,651.00 | 5 | 7 | 0 |
| 39. 其他の自由業 | 105,000 | 95,000 | 10,000 | 950.00 | 4 | 5 | 1 |
| 29. 娯楽興行に關する業 | 89,000 | 63,000 | 26,000 | 242.31 | 3 | 3 | 3 |
| 2. 畜産 | 67,030 | 53,030 | 14,000 | 378.79 | 2 | 3 | 1 |
| 38. 著述藝術遊藝 | 59,000 | 44,000 | 15,000 | 293.33 | 2 | 2 | 1 |
| 24. 其他の工業 | 58,000 | 53,000 | 5,000 | 1,060.00 | 2 | 3 | 0 |
| 41. 其他の産業 | 56,000 | 44,000 | 12,000 | 366.67 | 2 | 2 | 1 |
| 13. 精巧工業 | 55,000 | 51,000 | 4,000 | 1,275.00 | 2 | 3 | 0 |
| 4. 其他の農業 | 34,000 | 33,000 | 1,000 | 3,300.00 | 1 | 2 | 0 |
| 8. 土石採取業 | 32,000 | 28,000 | 4,000 | 700.00 | 1 | 2 | 0 |
| 18. 皮革骨羽毛品類製造業 | 26,020 | 21,000 | 5,000 | 420.40 | 1 | 1 | 0 |
| 28. 物品貸業預り業 | 26,000 | 24,000 | 2,000 | 1,200.40 | 1 | 1 | 0 |

| | | | | | | | |
|---------------|--------|--------|-------|----------|---|---|---|
| 20. 製 鹽 業 | 24,000 | 19,000 | 5,000 | 380.00 | 1 | 1 | 0 |
| 34. 法 務 | 14,010 | 13,010 | 1,000 | 1,301.00 | 1 | 1 | 0 |
| 31. 其 他 の 商 業 | 14,000 | 14,000 | — | — | 1 | 1 | — |

第十一表は、第二表職業分類の、中分類欄に應ずる男女の有業者を、總数の多いものから少ないもの順に示したものです。職業欄の数字は、第二表職業分類の中分類の番號です。

第十一表 昭和5(1930)

| 職 業 | 總 數 | 男 | 女 | 女百につき男 | 各 人 口 千 中 | | | |
|------------------------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------|-------|---|
| | | | | | 總 數 | 男 | 女 | 中 |
| 總 數 | 29,220,550 | 19,089,520 | 10,131,030 | 188.43 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | |
| 1. 農 耕 に 従 事 す る 者 | 13,574,170 | 7,479,170 | 6,095,000 | 122.71 | 465 | 392 | 602 | |
| 24. 商 業 的 職 業 | 3,263,030 | 2,497,090 | 766,000 | 325.99 | 112 | 131 | 76 | |
| 26. 接 客 業 に 従 事 す る 者 | 1,143,020 | 477,020 | 666,000 | 71.62 | 39 | 25 | 66 | |
| 14. 紡 織 工 業 に 従 事 す る 者 | 1,013,450 | 469,450 | 544,000 | 86.30 | 35 | 25 | 54 | |
| 27. 運 輸 に 従 事 す る 者 | 939,540 | 503,540 | 30,000 | 3,031.80 | 32 | 48 | 3 | |
| 21. 上 木 建 築 に 従 事 す る 者 | 912,140 | 908,140 | 4,000 | 22,703.50 | 31 | 48 | 0 | |
| 38. 家 事 使 用 人 | 806,000 | 87,000 | 719,000 | 12.10 | 28 | 5 | 71 | |
| 18. 木竹草藁類に關する製造に従事する者 | 684,870 | 624,870 | 60,000 | 1,041.45 | 23 | 33 | 6 | |
| 11. 金屬工業機械器具製造造船運搬用具製造に従事する者 | 669,960 | 645,960 | 24,000 | 2,691.50 | 23 | 34 | 2 | |
| 5. 漁 業 に 従 事 す る 者 | 568,040 | 521,040 | 47,000 | 1,108.60 | 19 | 27 | 5 | |
| 39. 其 他 の 有 業 者 | 561,000 | 466,980 | 94,020 | 496.68 | 19 | 25 | 9 | |
| 20. 飲食料品嗜好品製造に従事する者 | 481,050 | 385,050 | 96,000 | 401.09 | 16 | 20 | 10 | |
| 15. 被服品製造に従事する者 | 460,390 | 303,390 | 157,000 | 193.24 | 16 | 16 | 16 | |
| 35. 其 他 の 職 業 | 434,050 | 396,050 | 38,000 | 1,042.24 | 15 | 21 | 4 | |

| | | | | | | | |
|---------------------|---------|---------|---------|-----------|----|----|----|
| 29. 官吏公更雇傭員 | 427,160 | 397,160 | 30,000 | 1,323.87 | 15 | 21 | 3 |
| 32. 教育に從事する者 | 325,040 | 219,040 | 106,000 | 206.64 | 11 | 11 | 11 |
| 3. 醫業に從事する者 | 310,000 | 83,000 | 227,000 | 36.56 | 11 | 4 | 22 |
| 16. 紙工業印刷に從事する者 | 259,870 | 233,870 | 26,000 | 899.50 | 9 | 12 | 3 |
| 30. 陸海軍現役軍人 | 253,630 | 253,630 | — | — | 9 | 13 | — |
| 34. 醫療に從事する者 | 241,160 | 135,150 | 106,010 | 127.49 | 8 | 7 | 11 |
| 10. 窯業(石加)業に從事する者 | 218,050 | 183,050 | 35,000 | 523.00 | 7 | 10 | 4 |
| 23. 其他の工業的職業者 | 204,730 | 178,730 | 26,000 | 687.42 | 7 | 9 | 3 |
| 6. 採炭に從事する者 | 176,040 | 145,040 | 31,000 | 467.87 | 6 | 8 | 3 |
| 4. 林業に從事する者 | 173,010 | 144,010 | 29,000 | 496.59 | 6 | 8 | 3 |
| 28. 通信に從事する者 | 169,020 | 118,020 | 51,000 | 231.41 | 6 | 6 | 5 |
| 33. 宗教 | 169,020 | 134,020 | 35,000 | 382.91 | 6 | 7 | 3 |
| 22. 瓦斯電気水道業に從事する者 | 158,030 | 157,030 | 1,000 | 15,703.00 | 5 | 8 | 0 |
| 13. 化學製品の製造に從事する者 | 127,000 | 108,000 | 19,000 | 568.42 | 4 | 6 | 2 |
| 36. 記者著述家藝術家遊藝家 | 125,000 | 98,000 | 27,000 | 362.96 | 4 | 5 | 3 |
| 2. 畜産に從事する者 | 98,850 | 84,850 | 14,000 | 606.07 | 3 | 4 | 1 |
| 25. 金融保險に從事する者 | 57,000 | 52,000 | 5,000 | 1,040.00 | 2 | 3 | 1 |
| 37. 其他の自由業者 | 51,010 | 47,010 | 4,000 | 1,175.25 | 2 | 2 | 0 |
| 12. 精巧工業に從事する者 | 50,000 | 48,000 | 2,000 | 2,400.00 | 2 | 3 | 0 |
| 7. 採鑛に從事する者 | 31,020 | 28,020 | 3,000 | 934.00 | 1 | 1 | 0 |
| 9. 土石採取に從事する者 | 28,120 | 24,120 | 4,000 | 603.00 | 1 | 1 | 0 |
| 17. 皮革骨羽毛品類製造に從事する者 | 27,020 | 22,020 | 5,000 | 440.40 | 1 | 1 | 0 |
| 19. 製鹽に從事する者 | 24,000 | 19,000 | 5,000 | 380.00 | 1 | 1 | 1 |
| 31. 法務に從事する者 | 5,000 | 5,000 | — | — | 0 | 0 | — |
| 8. 石油鑛業に從事する者 | 1,000 | 1,000 | — | — | 0 | 0 | — |

第十二表 昭和5 (1930)

| 職業(本業)別有副業者(大分類) | | | | | | | | |
|------------------|-----------|-----------|-----------|------------|-------|-------|-------|--|
| 職 業 | 總 數 | 男 | 女 | 女百に つき男 | 各人口千中 | | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 | |
| 總 數 | 7,605,110 | 4,295,110 | 3,310,000 | 129.76 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | |
| I. 農 業 | 5,811,080 | 3,443,080 | 2,368,000 | 145.40 | 764 | 801 | 715 | |
| X. 無 業 | 873,010 | 58,010 | 815,000 | 7.12 | 115 | 14 | 246 | |
| IX. 工 業 | 347,010 | 305,010 | 42,000 | 726.21 | 46 | 71 | 13 | |
| V. 商 業 | 282,000 | 222,000 | 60,000 | 370.00 | 37 | 52 | 18 | |
| VII. 公務自由業 | 108,000 | 103,000 | 5,000 | 2,060.00 | 14 | 24 | 2 | |
| II. 水 産 業 | 77,010 | 71,010 | 6,000 | 1,183.50 | 10 | 17 | 2 | |
| VI. 交 通 業 | 66,000 | 63,000 | 3,000 | 2,100.00 | 9 | 15 | 1 | |
| IX. 其他の有業者 | 28,000 | 22,000 | 6,000 | 366.67 | 4 | 5 | 2 | |
| III. 鑛 業 | 7,000 | 5,000 | 2,000 | 250.00 | 1 | 1 | 1 | |
| VIII. 家事使用人 | 6,000 | 3,000 | 3,000 | 100.00 | 1 | 1 | 1 | |

第十三表 昭和5 (1930)

| 副業の種類(大分類) | | | | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|------------|-------|-------|-------|--|
| 職 業 | 總 數 | 男 | 女 | 女百に つき男 | 各人口千中 | | | |
| | | | | | 總數 | 男 | 女 | |
| 總 數 | 7,605,110 | 4,295,110 | 3,310,000 | 129.76 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | |
| I. 農 業 | 5,692,050 | 3,065,050 | 2,627,000 | 116.67 | 748 | 714 | 794 | |
| IV. 工 業 | 1,062,050 | 560,040 | 502,000 | 111.56 | 140 | 130 | 152 | |
| V. 商 業 | 484,000 | 348,000 | 136,000 | 255.88 | 64 | 81 | 41 | |
| II. 水 産 業 | 123,010 | 108,010 | 15,000 | 720.07 | 16 | 25 | 5 | |
| VI. 交 通 業 | 105,010 | 100,010 | 5,000 | 2,000.20 | 14 | 23 | 2 | |
| IX. 其他の有業者 | 91,000 | 76,000 | 15,000 | 506.67 | 12 | 18 | 5 | |
| VII. 公務自由業 | 37,000 | 30,000 | 7,000 | 428.57 | 5 | 7 | 2 | |
| III. 鑛 業 | 10,000 | 8,000 | 2,000 | 400.00 | 1 | 2 | 1 | |
| VIII. 家事使用人 | 1,000 | — | 1,000 | — | 0 | — | 0 | |

第十二表は、本業の外に副業を持つ男女の有業者又は無業者を、職業大分類によつて示したものです。本業と副業との關係——即ちさう言ふ本業の者が一番多く副業を持つか、を明らかにするために、本業者を、副業の持ち方の多いものから少ないものゝ順にして示してあります。

第十三表では、本業と關係なしに、副業そのものが、職業の大分類に應じて、男女の副業者の多いものから少ないもの順に示されて居ります。

第十四表は、職業の中分類に應じて、男女の副業者の順位を示したものです。

第十四表 昭和5 (1930)

| 職 業 | 總 數 | 副 業 の 種 類 (中 分 類) | | 各 人 口 中 |
|-----------------------|-----------|-------------------|-----------|----------|
| | | 男 | 女 | |
| 總 數 | 7,605,110 | 4,295,110 | 3,310,000 | 129.76 |
| 3. 種 業 に 従 事 す る 者 | 4,406,020 | 2,202,020 | 2,204,000 | 99.91 |
| 1. 農 耕 に 従 事 す る 者 | 849,010 | 568,010 | 281,000 | 202.14 |
| 18. 木竹草藁類に關する製造に従事する者 | 537,000 | 264,000 | 273,000 | 96.70 |
| 24. 商 業 的 職 業 | 439,000 | 314,000 | 125,000 | 251.20 |
| 2. 畜 産 に 従 事 す る 者 | 223,000 | 117,000 | 106,000 | 110.38 |
| 4. 林 業 に 従 事 す る 者 | 214,020 | 178,020 | 36,000 | 494.50 |
| 20. 飲食料品嗜好品製造に従事する者 | 134,020 | 89,020 | 46,000 | 191.35 |
| 5. 漁 業 に 従 事 す る 者 | 123,010 | 108,010 | 15,000 | 720.07 |
| 27. 運 輸 に 従 事 す る 者 | 105,010 | 100,010 | 5,000 | 2,000.20 |
| | | | | 總 數 |
| | | | | 男 |
| | | | | 女 |

| | | | | | | | |
|------------------------------|---------|--------|--------|--------|----|----|----|
| 15. 被服身部品製造に従事する者 | 103,000 | 13,000 | 85,000 | 21.18 | 14 | 4 | 26 |
| 14. 紡織工業に従事する者 | 103,000 | 30,000 | 73,000 | 41.10 | 14 | 7 | 22 |
| 21. 土木建築に従事する者 | 92,020 | 92,020 | — | — | 12 | 21 | — |
| 39. 其他の有業者 | 91,00 | 76,000 | 15,000 | 506.67 | 12 | 18 | 5 |
| 26. 接客業に従事する者 | 37,000 | 26,000 | 11,000 | 236.36 | 5 | 6 | 3 |
| 16. 紙工業印刷に従事する者 | 30,000 | 19,000 | 11,000 | 172.73 | 4 | 4 | 3 |
| 11. 金属工業機械器具製造造船運搬用具製造に従事する者 | 20,000 | 18,000 | 2,000 | 900.00 | 3 | 4 | 1 |
| 10. 窯業土石加工に従事する者 | 19,000 | 15,000 | 4,000 | 375.00 | 2 | 3 | 1 |
| 36. 記者著述家藝術家遊藝家 | 13,000 | 9,000 | 4,000 | 225.00 | 2 | 2 | 1 |
| 23. 其他の工業的職業 | 9,000 | 5,000 | 4,000 | 125.00 | 1 | 1 | 1 |
| 9. 土石採取に従事する者 | 8,000 | 6,000 | 2,000 | 300.00 | 1 | 1 | 1 |
| 13. 化学製品の製造に従事する者 | 8,000 | 5,000 | 3,000 | 166.67 | 1 | 1 | 1 |
| 25. 金融保険に従事する者 | 8,000 | 8,000 | — | — | 1 | 2 | — |
| 34. 醫療に従事する者 | 8,000 | 7,000 | 1,000 | 700.00 | 1 | 1 | 0 |
| 33. 宗教 | 6,000 | 4,000 | 2,000 | 200.00 | 1 | 1 | 1 |
| 37. 其他の自由業者 | 5,000 | 5,000 | — | — | 1 | 1 | — |
| 19. 製鹽に従事する者 | 4,000 | 3,000 | 1,000 | 300.00 | 1 | 1 | 0 |
| 7. 採鑛に従事する者 | 2,000 | 2,000 | — | — | 0 | 0 | — |
| 12. 精巧工業に従事する者 | 2,000 | 2,000 | — | — | 0 | 0 | — |
| 32. 教育に従事する者 | 2,000 | 2,000 | — | — | 0 | 0 | — |
| 35. 青記的職業 | 2,000 | 2,000 | — | — | 0 | 0 | — |
| 17. 皮革骨毛物品製造に従事する者 | 1,000 | 1,000 | — | — | 0 | 0 | 1 |
| 31. 法務に従事する者 | 1,000 | 1,000 | — | — | 0 | 0 | 1 |
| 38. 家事使用人 | 1,000 | — | 1,000 | — | 0 | — | 0 |

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市内 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾五錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まごめにした書物がなにかこの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものご信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金六錢

- 一 保育案の實際は幼稚園必須の資料
- 一 東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
- 一 待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

發行所

日本幼稚園協會

○定價及郵稅(今度改正になりました)故御注意を添へ本會宛直接御註文下さい。

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
攝替東京一七二六六番

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

| | | | | | |
|-----|---------|------------|------------|------------|----|
| 一月分 | 金參拾五錢 | 特等面 | 一頁 | 二等面 | 一頁 |
| 半年分 | 金貳圓拾錢 | 金貳圓 | 拾圓 | 拾圓 | 拾圓 |
| 一年分 | 金四圓貳拾錢 | 金拾圓 | 一頁 | 以下 | 以下 |
| 拾貳冊 | 送金四圓貳拾錢 | 廣告社に御申込下さい | 神田區駿河臺ノ三品田 | 廣告社に御申込下さい | |

昭和十二年四月十五日印刷納本
 昭和十二年四月十五日發行
 幼兒の教育 第三十七卷 第四號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 柴山 則常
 印刷所 杏林 舎
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます)
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

【書備必園稚幼】

文部省
體育研究所
秋谷光男先生著

菊二倍大版・全二三八頁
定價金四圓五十錢
活版全新組・製本超特製
送料金三十五錢

最新式 比體重 比胸圍 比坐高 早見表

日本學校衛生聯盟撰定標準用紙
特製堅美・表紙付
一册(學)金二圓

身體檢查票

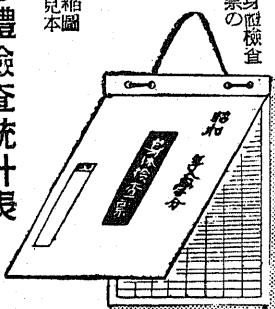
四十版
來
文部省學校衛生官
體育研究所技師
文檢委員・岡博士
吉田章信先生
指導
校閱
坐高測定模範圖掛
大附録付
價
二

十二年
新改正
學校身體檢查精義

▼新設定の比體重比胸圍比坐高の最正確・最新の早見表
▼最も正確な教訓用紙にせしめる新表
▼比を一目の下に明瞭に得る新表
▼小学校・中等學校・諸學校に
必備必須の改正身體檢查用紙
▼拙著の註文部分の注意
▼物等がある故御注意
▼教育書の東洋圖書が魂の出版
改正身體檢查の三離比水解の魂
▼一、小學生にも見易く便宜し
▼二、全冊印刷算新組で印刷
▼三、排刷最新式にて索引も便
▼四、活版組で印刷機
▼五、比共最初に凡例を附録す
▼六、製本超特製で堅牢且優美
▼七、例手乗・杜撰のは無
▼八、最新最精・最良にて日本一

本票の八大特色

- 一、特製表紙付年度・校名記入式
- 二、標準用紙八十枚・一學級用紙
- 三、生徒一人一枚枚別綴紙が至便
- 四、全用紙穿孔・加除自在・紐付
- 五、紙質標上石版刷不揃凸凹無し
- 六、二色刷の各種注意事項を掲載
- 七、正書異常の記入實例を特設す
- 八、至廉・多数は入札にも應ず



▼姉妹表
▼保存箱入
▼一箱一圓

東京 東洋圖書株式會社

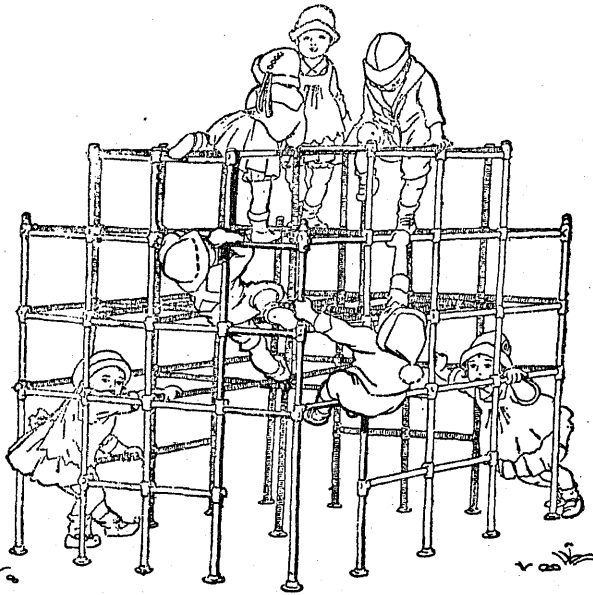
東京市神田區一町保
東京市京橋區一町保
大阪府大阪市南區
大阪府大阪市東區
東京市東區
東京市東區
東京市東區
東京市東區

今！御園の御設備に絶好期！！

新豫算のみに、「あれも一臺備へたい」の思召が御座いませば、兎も角も弊館へ御相談下さい。

諸物價昂騰の際、工手間も設備費も、割安に能率的に、遺憾なく経済的にいたします。

- ◇波動廻轉塔 一〇〇圓
- ◇子供の家(社會遊び) 八七圓
- ◇スモール・セット 三二圓
- ◇人形芝居一揃(舞臺・人形・背景共) 五〇圓
- ◇コンビネーション運動具 一一〇圓
- ◇杵のぼり 一四〇圓
- ◇大型二十人乗シーソー 八〇圓
- ◇太鼓梯子 五〇圓
- ◇鐵製二人乗ぶらんこ 六五圓
- ◇大型鐵製滑り臺 九〇圓
- ◇箱積木 一八〇圓
- ◇樂隊遊び用樂器一揃 二〇圓
- ◇その他新案各種運動具



株式會社 レーベール館

本 社 東 京 神 田 保 町 二 (33) 番 三 八 二 六 二 番
 出 張 所 大 阪 東 區 後 備 町 五 (84) 番 九 三 八 番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回十五日發行)

昭和十二年四月十三日印刷納本
 昭和十二年四月十五日發行

定 價 三 十 五 錢